

金ヶ崎周辺施設整備計画策定委員会

第4回説明資料

平成30年1月31日

敦賀市産業経済部新幹線まちづくり課

目次

1. 敦賀市と金ヶ崎周辺エリアの現況	3
2. 敦賀市の上位計画	18
3. 敦賀市と金ヶ崎周辺地エリアの課題	27
4. 基本方針	33
5. 事業計画	41
6. 金ヶ崎周辺エリアの機能計画	55
7. ムゼウムの機能計画	86
8. 鉄道遺産の機能計画	133
9. 管理運営計画	149
10. 事業推進計画	164

1. 敦賀市と金ヶ崎周辺エリアの現況

1. 敦賀市の観光動向

(1) 主要観光スポット(市街地)

① 氣比神宮エリア

- 氣比神宮、キッズパークつるが 等

② 金ヶ崎エリア周辺

- 赤レンガ倉庫、旧敦賀港駅舎
- 人道の港「敦賀ムゼウム」
- 金崎宮・金ヶ崎城跡 等

③ 舟溜りエリア周辺

- 市立博物館、山車会館
- 町家ショップ、紙わらべ資料館 等

④ 氣比の松原

- 名勝氣比の松原、来迎寺 等

⑤ 敦賀駅周辺

- オルパーク、駅前商店街、シンボルロード 等



1. 敦賀市の観光動向

(2) 観光客数の推移

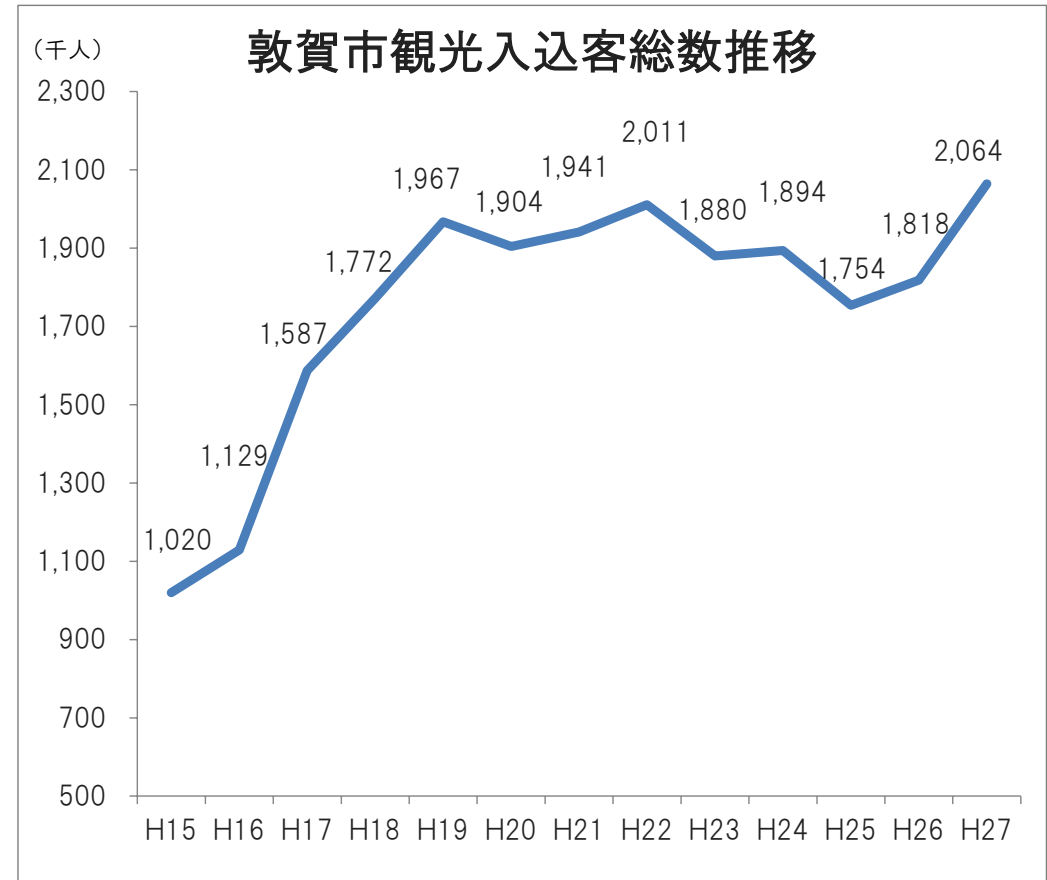
近年は増減を繰り返す。

- 平成15年 約102万人

▼ 約2倍増加

平成19年 約197万人

- 平成19年からは、微増減を繰り返す。
- 平成27年は約206万人で、最も多くの観光客数を記録。

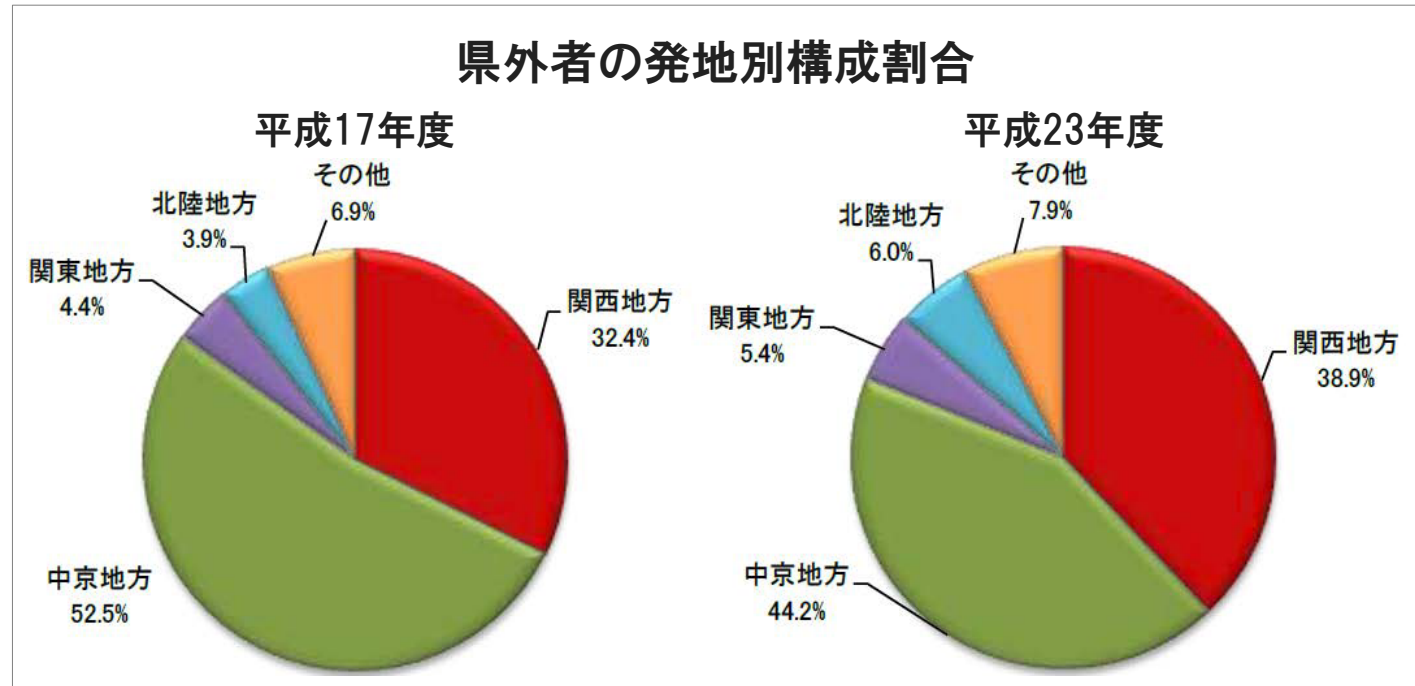


1. 敦賀市の観光動向

(3) 県外観光客数の発地別構成割合

敦賀の観光客は、関西・中京地方から来訪が約8割。

- 県外客の発地別構成割合では、約8割が関西・中京方面。
- 関東地方からの観光客はわずか5%程度に過ぎない。北陸新幹線沿線の観光客を合わせても10%程度か。



(4) 今後の展望

平成34年度に北陸新幹線が延伸。さらなる飛躍を期待。

- 観光動向調査のアンケートでは、北陸新幹線が敦賀まで延伸した際、約8割が敦賀への訪問を希望。首都圏の観光客の取り込みに期待。

1. 敦賀市の観光動向

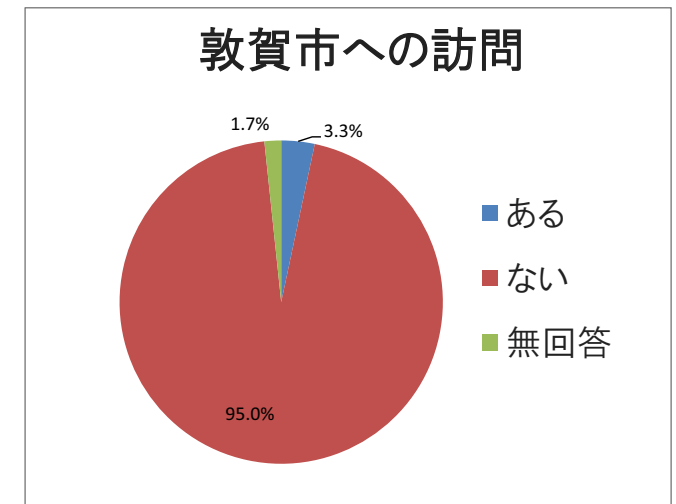
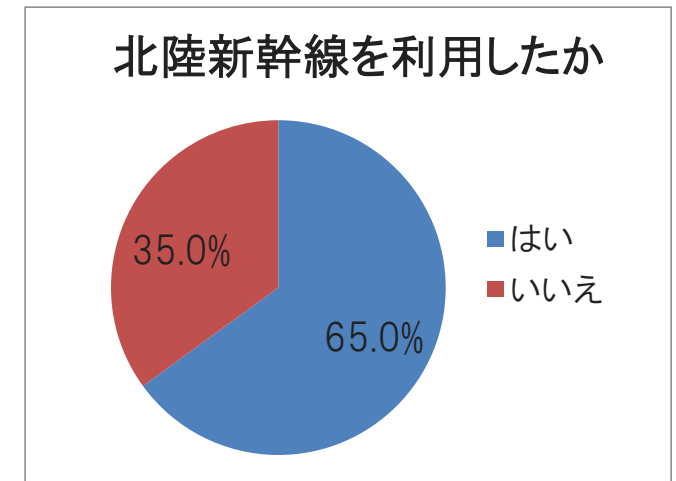
(4) 観光客意識調査結果

金沢を訪れている観光客は、ほとんどが敦賀を訪れたことがない。

※(株)JTB中部による北陸新幹線敦賀開業受け皿づくり検討業務
(観光客に向けたアンケート調査等)より抜粋

①金沢市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関東52%、東海12%、関西10%。
- **約7割が北陸新幹線**を利用して金沢を訪問。
- 敦賀市を知らないと答えた観光客は**約4割**。
- 敦賀市を訪れたことがない観光客は**約9割**。
- 敦賀市のイメージは、**未記入**が目立った。
- 具体的な記入で一番多い回答は「**原発**」。
- 「花火」「海」「寺院」など具体的でない回答も。



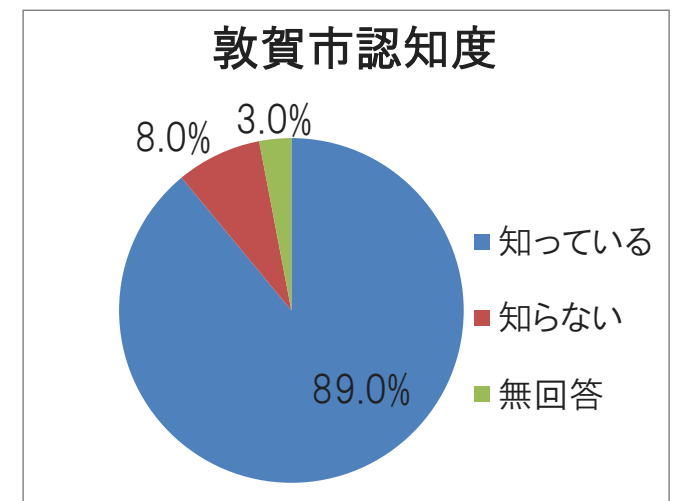
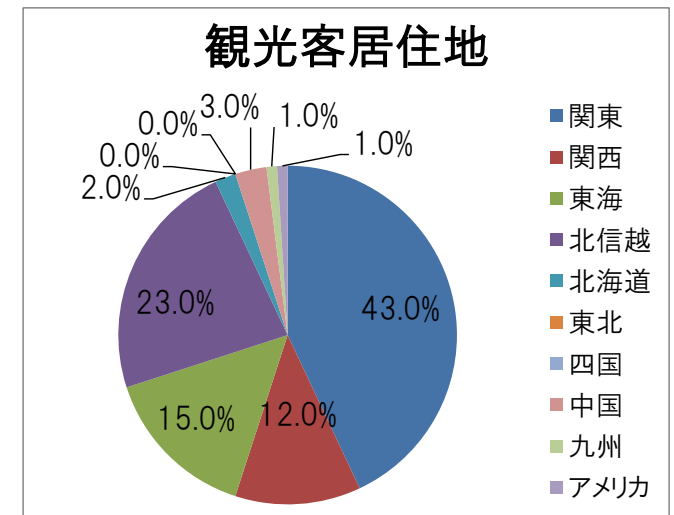
1. 敦賀市の観光動向

(4) 観光客意識調査結果

富山を訪れている観光客は、敦賀の存在を知ってはいるものの、具体的なイメージがなく、認識不足。

② 富山市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関東43%、北信越23%、東海15%。
- 敦賀市を知らないと答えた観光客は約1割。
- 敦賀市を訪れたことがない観光客は約6割。
- しかし、敦賀市のイメージは未記入が多く、認知度はあるが、認識は低いと推測できる。
- 一番多い回答は「原発」(金沢より多い回答数)
- 港や海、ソースカツ丼、おろしそば等も回答。
- 「東尋坊」の回答等、エリアの認識不足。



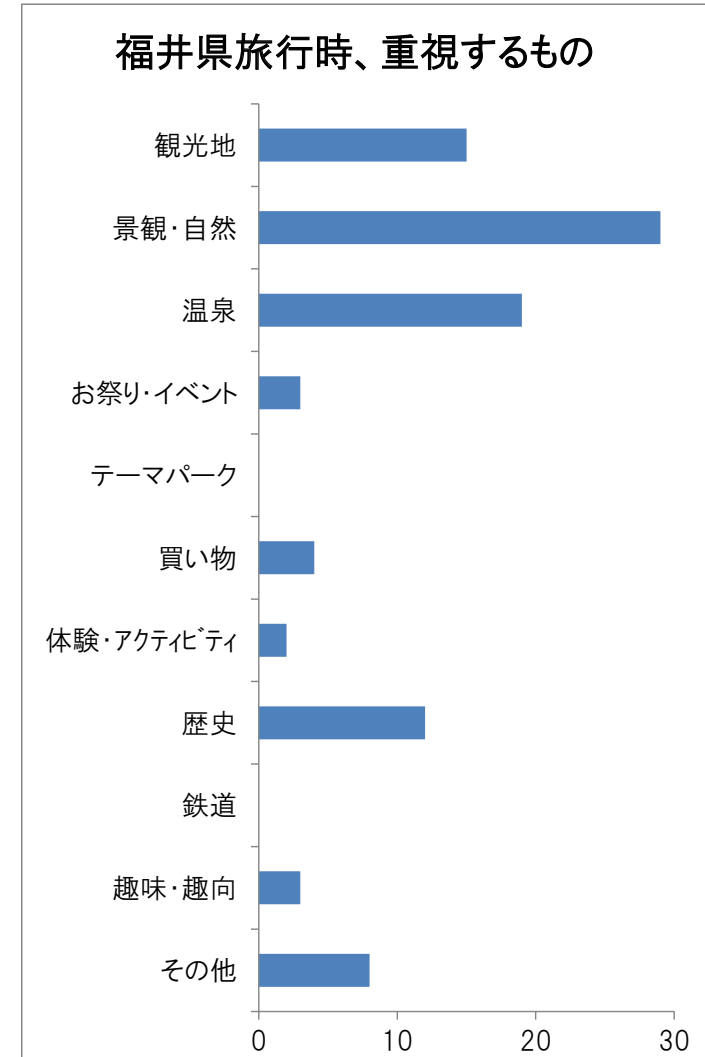
1. 敦賀市の観光動向

(4) 観光客意識調査結果

敦賀を訪れている観光客も、敦賀のイメージが定まっていない。

③ 敦賀市を訪れた観光客へのアンケート結果

- 出発地は、関西36%、関東22%、東海19%。福井県への旅行動機は、「**景観・自然**」を最も重視している。次に、「温泉」「観光地」「歴史」。
- 敦賀の観光地として「**氣比神宮**」への認識は高い。次に、「氣比の松原」「赤レンガ」「金崎宮」。
- 「さかな街」「ムゼウム」は少数回答。
- 「三方五湖」等、認識不足の回答もある。
- **敦賀のイメージはやはり定まっていない**。敦賀の主なイメージは、「海・港町」「原発」「海産物」等。



1. 敦賀市の観光動向

(4) 観光客意識調査結果

「敦賀ブランド」として、誰でも知っている「敦賀コンテンツ」確立へ

④ 調査結果の所感・まとめ

- 敦賀には着地型コンテンツになるものはあるが、**メインとなるキラーコンテンツが首都圏へ全く浸透してない。**
- まつりや花火等のイベントは、全国各地に数多くあり、敦賀が突出してアピールできるものではない。
- ソースカツ丼やそば、ふぐも福井県の認識。敦賀独自のものではない。
- 市内へのアクセスとなる周遊バスは、本数も多くななく、利便性はよくない。
- 観光コースに「**ハコモノ**」施設が多い**印象**。現在は個人旅行が増え、特別な体験等、個人の満足度の高いものを求める傾向が高くなっている。
- 金ヶ崎緑地は、敦賀湾の歴史を感じられる湾岸エリア。公園として整備されてはいるが、**中途半端な状態**で放置されている印象。
- 北陸新幹線の開業に向け、「敦賀ブランド」を確立して、広域観光のルートづくりが必要。

2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(1) 金ヶ崎周辺エリア

国内有数の港町だった頃の面影を残すエリア

- 明治時代にはウラジオストクとの間に定期船が開かれ、ロシアとの貿易や国際郵便の経由等で大いに栄えた。
- 東京(新橋)からパリを結ぶ欧亜国際連絡列車も運行されていた(敦賀から船、シベリア鉄道経由)。
- 敦賀は「港と鉄道」で欧州に開かれた、名実ともに「日本の玄関」だった。
- 港湾設備の拡充により、当時の面影はないが、港湾・鉄道遺産が往時を偲ぶよすがとなっている。
- 赤レンガ倉庫の整備が話題を呼び、昨年度は観光客が倍増している。



	27(2015)年度	28(2016)年度
観光客数	156,200人	356,100人

※赤レンガ倉庫・ランプ小屋・旧敦賀港駅舎・ムゼウムの年間利用者数+ミライエ動員数

2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(2) 人道の港 敦賀ムゼウム

後世に誇るべき博愛の精神を感じ、伝え継ぐミュージアム

- 東洋の波止場と謳われた敦賀港は、過去に幾度も難民を受け入れている。
- 大正9(1920)年と11(1922)年には、混乱するシベリアから、日本赤十字社により約800人のポーランド孤児が救われた。
- 昭和15(1940)年には、杉原千畝の「命のビザ」によって、およそ4~6000と言われるユダヤ人難民が敦賀を經由して自由を手に入れた。
- 本館は、これらの事績を伝える目的で、平成20(2008)年に開館した。
- 杉原千畝の映画化や、世界記憶遺産への登録申請で注目を浴び、昨年度は倍近く利用者数を伸ばしている。



	27(2015)年度	28(2016)年度
利用者数	26,900人	48,900人

2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(2) 人道の港 敦賀ムゼウム

延床面積	展示面積
278㎡	177㎡

A.大陸への玄関・敦賀港
東洋の波止場

B.欧亜国際連絡列車
大陸横断

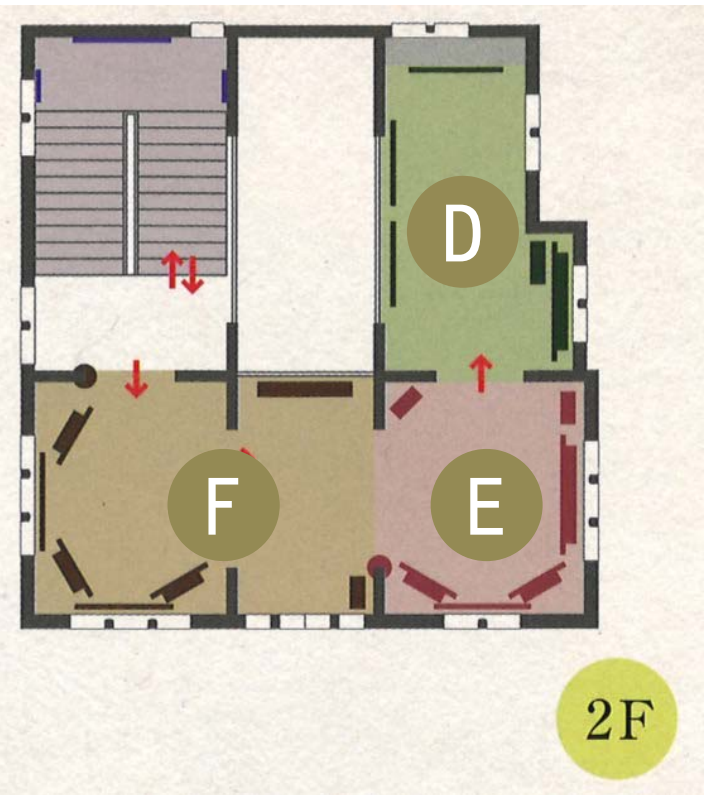
C.交流コーナー
来館者のメッセージ
交流



D.杉原千畝コーナー
博愛精神第一

E.ユダヤ人難民
自由と平和

F.ポーランド孤児
感謝



2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(3) 敦賀赤レンガ倉庫 巨大ノスタルジオラマ

ノスタルジーと出会える、港まち敦賀の新たな観光スポット

- 外国人技師の設計により明治38(1905)年に建築された県内有数のレンガ建造物。登録有形文化財。
- 観光施設として「ジオラマ館」「レストラン館」「オープンガーデン」を整備し、平成27(2015)年10月に開館。
- 戦前の敦賀の港と鉄道をジオラマ化した「ノスタルジオラマ」は、鉄道ジオラマとして国内最大級の規模を誇る。
- 年間8万人を集客目標としていたが、開館9ヶ月で10万人を突破した。



	27(2015)年度	28(2016)年度
利用者数	69,400人※	212,400人

※約5ヶ月間

2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(4) 港湾遺産・鉄道遺産

①旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

- 東京～パリを17日間で結んだ、かつてのヨーロッパへの最短路、欧亜国際連絡列車の発着駅を再現。
- 現在は敦賀港の歴史を紹介している。

②旧敦賀港駅ランプ小屋

- 明治15(1882)年頃、列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管する油庫として建築。現在は修復され公開中。

③北陸本線貨物支線(敦賀港線)

- かつて欧亜国際連絡列車が走った。戦前戦後を通して主に貨物線として利用。
- 平成21(2009)年に廃止され、現在は利用されていない。



2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(5) 歴史的資源

① 金崎宮

- いわゆる建武中興十五社の一つとして、明治時代に創建。祭神は南朝の恒良親王と高良親王。
- 境内には約千本のソメイヨシノがあり、県内屈指の桜の名所として知られ、4月上旬には神事・花換まつりが行われる。



② 金崎城跡・金前寺

- 南北朝時代、新田義貞と足利軍が戦った古戦場。松尾芭蕉が敦賀を訪れた際、「月いつこ鐘は沈るうみのそこ」と詠んだ。
- 織豊期には朝倉軍と織田軍の間でも戦いが繰り広げられた(金ヶ崎の退き口)。



2. 金ヶ崎周辺エリアの概要

(6) 周辺の港湾遺産・鉄道遺産

① 敦賀駅 転車台

- 昭和27(1952)年製造と記されている。

② 眼鏡橋

- 初の北陸線施設。市街地で明治前期に遡る唯一の鉄道遺産として高価値。

③ 旧北陸本線 トンネル群

- 当時最長だった柳ヶ瀬トンネルを含め長浜～敦賀間は明治17年(1884)年に全通。

④ 本町第3公園SL

- 昭和46(1971)年まで小浜線で活躍していたC58型蒸気機関車を目玉として設置。

⑤ 立石岬灯台

- 明治14(1881)年に石造り灯台としては初めて日本人のみによる設計、施工で建設。

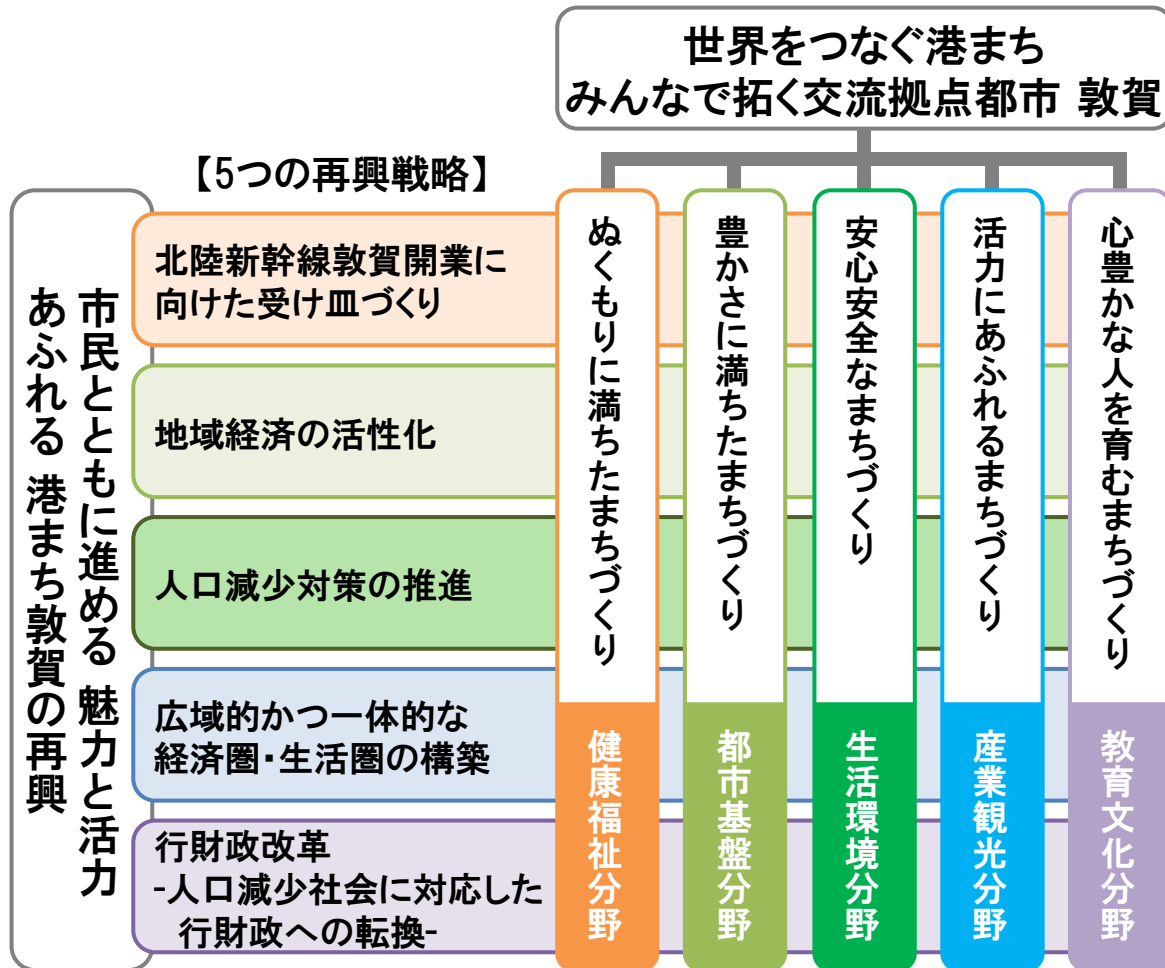


2. 敦賀市の上位計画

1. 第6次敦賀市総合計画後期基本計画実施計画

(1) 敦賀市再興プラン全体像

市民とともに進める 魅力と活力あふれる 港まち敦賀の再興



【前期基本計画中の社会変化】

- 北陸新幹線金沢・敦賀間の着工認可(平成34年度開業予定)。
- 原子力発電所の長期運転停止による地域経済の停滞。
- 見通しを上回る人口減少。少子高齢化の加速。

後期基本計画で対応

1. 第6次敦賀市総合計画後期基本計画実施計画

(2) 金ヶ崎周辺施設整備の位置付け

再興戦略1

北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくり

- 敦賀のイメージ戦略の推進
- 各地域資源を活かした回遊性を創出する観光資源開発
- 二次交通等の充実

第2章 豊かさに満ちたまちづくり

第2節 市街地の活性化

- テーマ性を持った一体的整備
- 回遊性の向上
- 官民の連携と民間主導の重視

名 称	敦賀港周辺エリア活性化計画		再興戦略1
概 要	敦賀港周辺エリアは、国際港として繁栄した往時を体感することができるエリアであることから、金ヶ崎周辺整備構想に基づき、「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会の活動に支援するとともに、人道の港敦賀ムゼウムの整備を行うなどの官民連携によって、受け皿づくりにおける最大の観光拠点化を目指します。		
主な取組	人道の港敦賀事業		
	鉄道開通等記念事業		
	人道の港敦賀ムゼウム整備事業		
成果指標	内 容	基準年度	目標年度
	歩行者・自転車通行量（休日）	2,471 人/日	3,150 人/日

2. 敦賀市観光振興計画 (平成25年度～34年度)

(1) 基本理念

港と鉄道を本市の象徴として
位置付け、これらを核とした
観光の【まちづくり】

敦賀に関わる全ての人が、
感謝の気持ちでおもてなし
できるような【ひとづくり】

(2) 基本方針

多様な観光資源の活用と保全

マーケティング戦略の推進

ホスピタリティの充実

観光振興の推進体制の強化

(3) 目標値

目標指数	平成24年(基準)	平成26年	平成30年	平成34年
敦賀市観光入込客数	190万人	200万人	223万人	240万人
うち宿泊観光客数	13.3万人	14万人	19万人	21万人
観光消費額	44億円	48億円	63億円	66億円

3. 景観まちづくり刷新モデル地区に選定

福井県敦賀市 ～観光拠点「人道の港」の整備とまちなみ刷新～



敦賀市公認キャラクター
よっしー

敦賀市概要

市域面積: 251.34 km²
人口: 66,842 人
予算規模: 253億円
(H28一般会計当初予算)
財政力指数: 0.969

景観刷新モデル地区概要

面積: 約1.6km²
主な移動方法: 徒歩、自転車、周遊観光バス
JR敦賀駅より徒歩(自転車)で
(1)金ヶ崎周辺 30分(10分)
(2)舟溜り地区 30分(10分)
(3)氣比神宮 15分(5分)

3年間で実施する主な事業

- ①観光交流センター 4棟 A=740㎡
- ②駐車場の整備 2箇所
a:施設付属駐車場A=6,000㎡
b:駅前立体駐車場A=2,600㎡
- ③道路空間美化化 L=800m
- ④レンタサイクルステーション 11箇所

事業実施箇所及びモデル地区等

クルーズ客船の景観
金ヶ崎周辺 エリア
金ヶ崎 緑地
赤レンガ倉庫
金崎宮
舟溜り地区
博物館通り
舟溜り地区
門前町
氣比神宮
本町商店街
駅前商店街
敦賀駅
新幹線(予定)

【重文】市立博物館
【重文】松本零士作品モニュメントシンボルロード

-凡例-
■ 主な事業箇所
■ モデル地区
■ 主要施設等
■ 重点景観形成エリア
● レンタサイクル駅主要位置



III 事業の実現可能性

- すでに市民の理解を得ているグランドデザイン(金ヶ崎周辺整備構想等)に沿って事業を実施するため地元住民との調整は軽微なものが多く、事業の実現可能性は極めて高い。
- 特に民間市民団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会が積極的に同エリア内で活動しており、すでに官民一体的な取り組みが進んでいることから、このノウハウを活かした事業の実施が可能である。

I 景観の刷新

①観光交流センター「人道の港」交流施設整備事業

金ヶ崎周辺空撮図
大正当時の建築物を復元
整備構想の実現

建設予定地周辺
大正頃の敦賀港

金ヶ崎周辺の20～30年後 将来イメージ図

③本町通り(国道8号)道路空間美化化事業

【事業概要】
・歩道の美化化・景観植栽の充実
・ストリートファニチャー50個程度設置

IV 景観に関するこれまでの取組状況

○博物館通り賑わい創出プロジェクト
道路の石畳化、電線地中化、町家建築物テナントミックス事業、朝市の実施、住民によるおもてなし事業「吊るし雛」等

手作り吊るし雛 before after

VI 民間による取組内容

○民間団体「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会
・官による施設整備等に合わせた連携イベントを実施する等、ソフト面で重要な役割を果たしている団体
・メイン事業のイルミネーション事業では、市民総参加を目指し、市民から回収した家庭用廃油を扱い、運営はすべてボランティアスタッフ(約100人)で冬季50日間におよぶ金ヶ崎緑地でのイベントを実現
・夜の景観を演出し55,000人を動員

緑地一体にLED40万球を設置(北陸ランガNo.1)

V 地域活性化への貢献

○北陸新幹線敦賀開業(H34年度末)に伴う観光客の受け皿として機能させ、新幹線整備効果を最大に高める。

4. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジアム～

(1) コンセプト

～敦賀ノスタルジアム～

ノスタルジー

古き良き時代を感じ取る

- 敦賀の最も輝かしい時代を感じ取ることができ、異国情緒を味わうことができる空間。

ミュージアム

金ヶ崎全体が博物館

- 港と鉄道の資源を有効活用し、史実を後世に伝え知的好奇心を満たすことができる空間。

(2) 整備構想の考え方

- 市民の願いである居心地の良い空間づくり、市民意見の反映。
- 恵まれた地域資源の活用(既存の建造物、人道の物語、自然・歴史資源)。
- 「鉄道」と「港」をテーマに、明治後期～昭和初期頃の時代を意識。
- 民間活力の導入による賑わい創出促進。

4. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジアム～

(3) 将来イメージ図



4. 金ヶ崎周辺整備構想 ～敦賀ノスタルジアム～

(4) 整備の方向性

古きよき時代を感じるゾーン

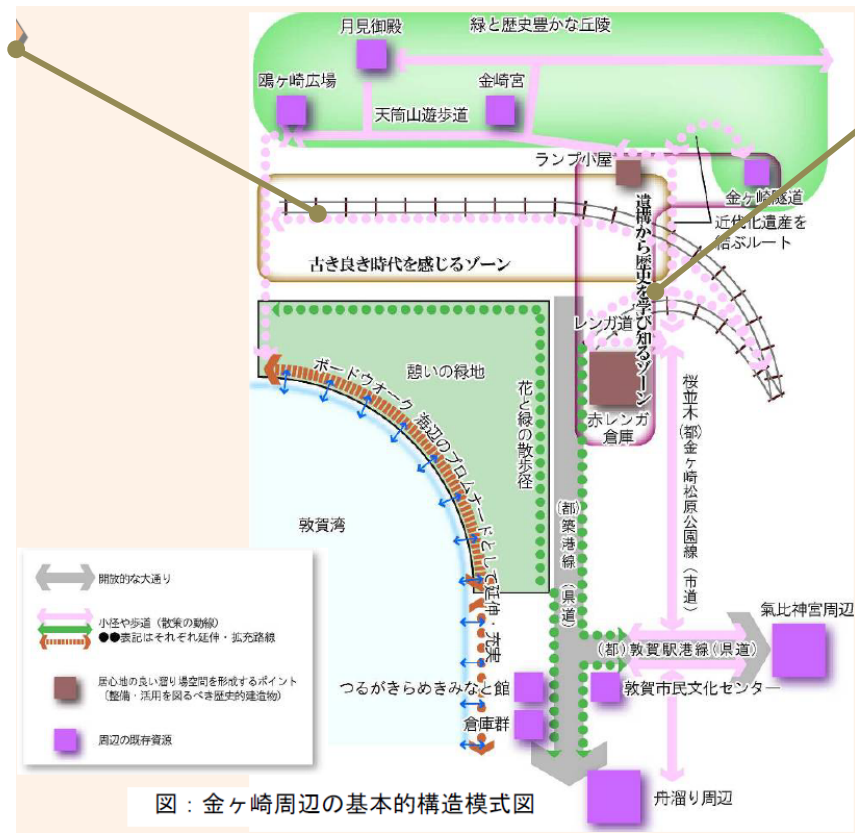
- 金ヶ崎の最も輝かしい時代、そして人道の港敦賀を象徴する場所。

遺構から歴史を学び知るゾーン

- 明治後期～昭和初期にかけての建築物や遺構で現存しているもの。

鉄道棧橋だった区域
プラットフォーム
乗降船場

赤レンガ倉庫
ランプ小屋
線路 等



図：金ヶ崎周辺の基本的構造模式図

3. 敦賀市と金ヶ崎周辺エリアの課題

1. 敦賀市の課題

観光客の 認識の不足

- 敦賀市と言えば「ここ！」と言える観光資源が、外部からは見えてこない(特に首都圏)。
- 敦賀市に行けば何があるのか、どんな楽しみがあるのか、多くの人は敦賀市をよく知らない。



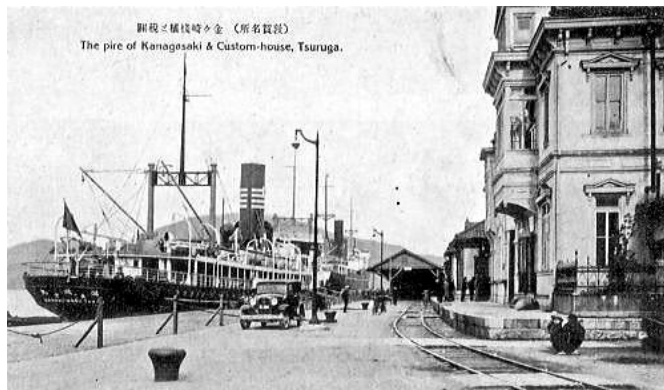
エリア間の連携が 不十分

- 既存の観光資源を結びつける取り組みは発展途上の段階。
- 二次交通アクセスが不便で、エリア間の往き来が不便。
- 既存の関連施設の機能や、その魅力はそれぞれ限定的。

2. 金ヶ崎周辺エリアの課題

古き良き敦賀の イメージが見えない

- 明治時代から戦前の、往時を偲ぶ資源はいくつも点在するが、それらは点に過ぎない。
- 日本海側拠点港として係留施設や荷さばき施設が整備されたため、全体的にはノスタルジックな雰囲気を感じにくい。



金ヶ崎周辺を巡る しかけに乏しい

- 大型トラックの交通量が多い県道敦賀港線やコンテナ置き場等、殺風景な場所が多い。
- 実際以上の距離感を感じる。
- 金ヶ崎エリアを散策していても目に見える景色に乏しく、まち歩きの動機が得られにくい。

3. 人道の港敦賀ムゼウムの課題

メッセージを伝えるためのコンテンツの不足



- 敦賀は戦時中に空襲を受けたこともあり、当時の出来事を伝える**実物資料が少ない**。
- 人道の港のエピソードに関する資料を調査し、展示(実物)資料を更に増やす必要がある。
- また、ユダヤ人難民の受入から既に80年近く、ポーランド孤児上陸からは100年近く経過し、**当時の出来事を体験した人も少なくなってきた**。



3. 人道の港敦賀ムゼウムの課題

観光客を受け入れるスペースの不足



- 建物が手狭で、展示は窮屈な印象を受ける。
- 団体利用には絶対的なスペースが不足。一度に40人程度を受け入れるとキャパオーバー。
- 現在、学習利用は、きらめきみなと館で事前レクチャーをした上で利用している。
- 施設の性格上、外国人の来訪もあるが受入体制が不十分。
- バリアフリー化も十分ではない。

4. 鉄道遺産の課題

回遊してもらおうしくみの不足



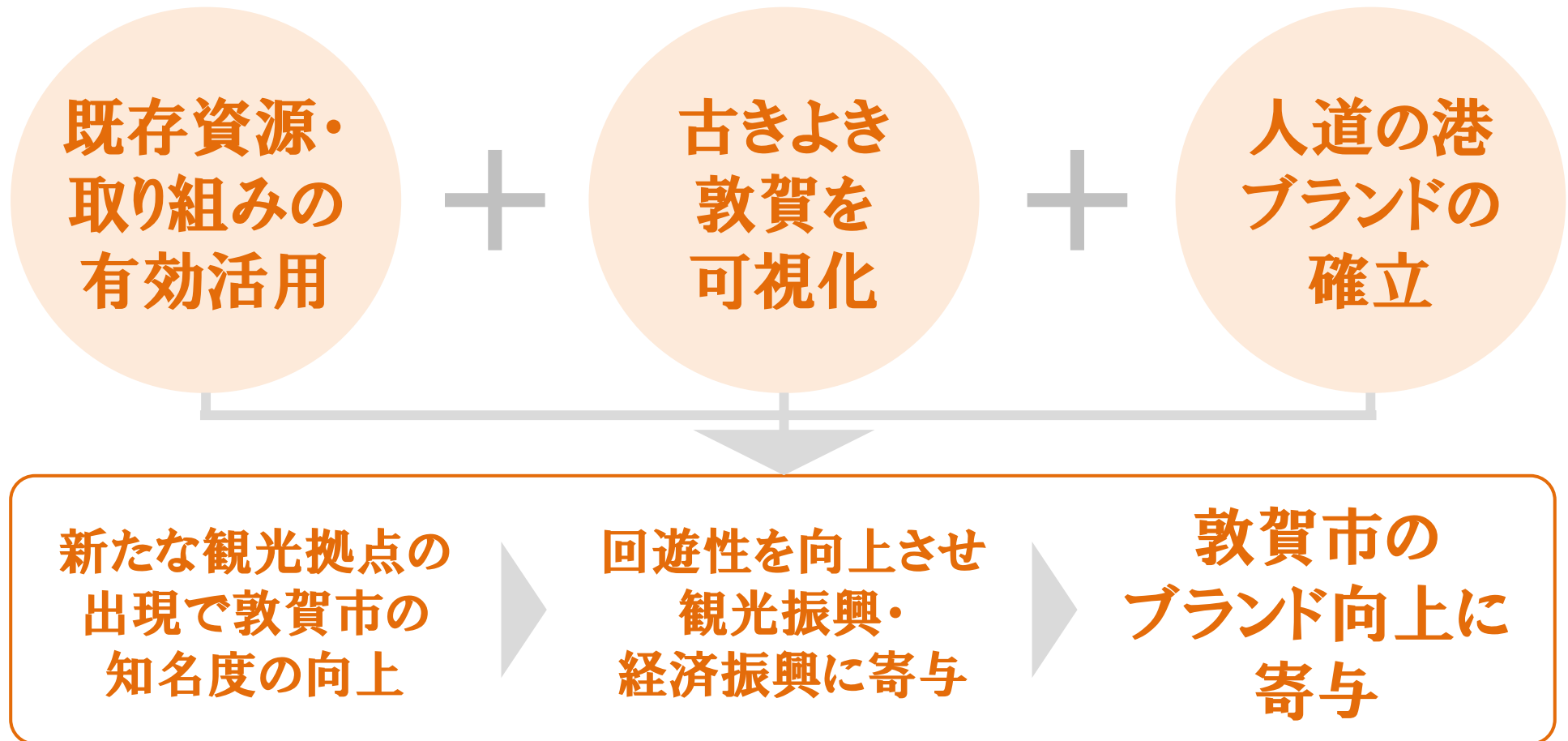
- 金ヶ崎周辺エリア内に存在する鉄道遺産は、敦賀港線が休止した後、ほぼ手つかずの状態。
- 市内や周囲にも鉄道遺産は点在するが、それらを回遊させるしくみが不足。
- かつて敦賀駅に存在した転車台の活用方法を検討していくことも必要（福井県で検討中）。

4. 基本方針

1. 基本的な考え方

(1) 整備事業の目的

敦賀だからこそ表現できる、ノスタルジックな景観の中で
「命」と「平和」の尊さを考える、ストーリーと場を実現



2. 整備方針

方針1 既存資源・取り組みの有効活用

(1) 遺構の有効活用

- 既に整備された赤レンガ倉庫やランプ小屋に加え、放置状態の敦賀港線の線路等、鉄道遺産や港湾遺産等、まず、あるものは有効に活用していく。

(2) 取り組みの発展拡張

- つるが「鉄道と港」フェスティバルをはじめとする、「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会の数々の取り組みに磨きをかけていく。
- 市民の機運を醸成し、中長期的に人材を育成、担い手を育てる。

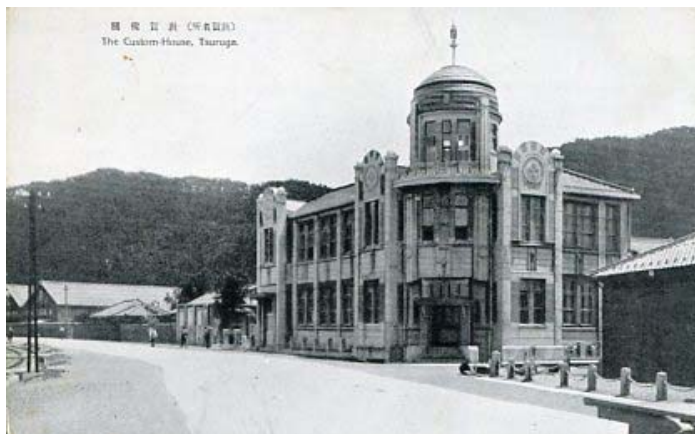


2. 整備方針

方針2 古きよき敦賀を可視化

(1) 景観づくり

- 明治～昭和初期を意識してエリア全体の修景を検討する。
- 不足する景色は補い、視界全体でノスタルジックな雰囲気に入れるようにして、敦賀の古き良き時代を解りやすく伝える。



(2) ストーリーづくり

- 金ヶ崎ならではのストーリーを提供して、ムゼウムをはじめとする点(資源)と点をつないで面で魅力を高める。
- エリアを巡らずにはいられなくなるようにする。

2. 整備方針

方針3 人道の港ブランドの確立

(1) やさしい人がいたまち

- 敦賀の最も輝かしい時代に、市民は暖かく難民を受け入れた。この事実が輝きを増す。
- 「ノスタルジー」×「人道」は、敦賀だけの、他の港湾都市では真似のできないストーリー。

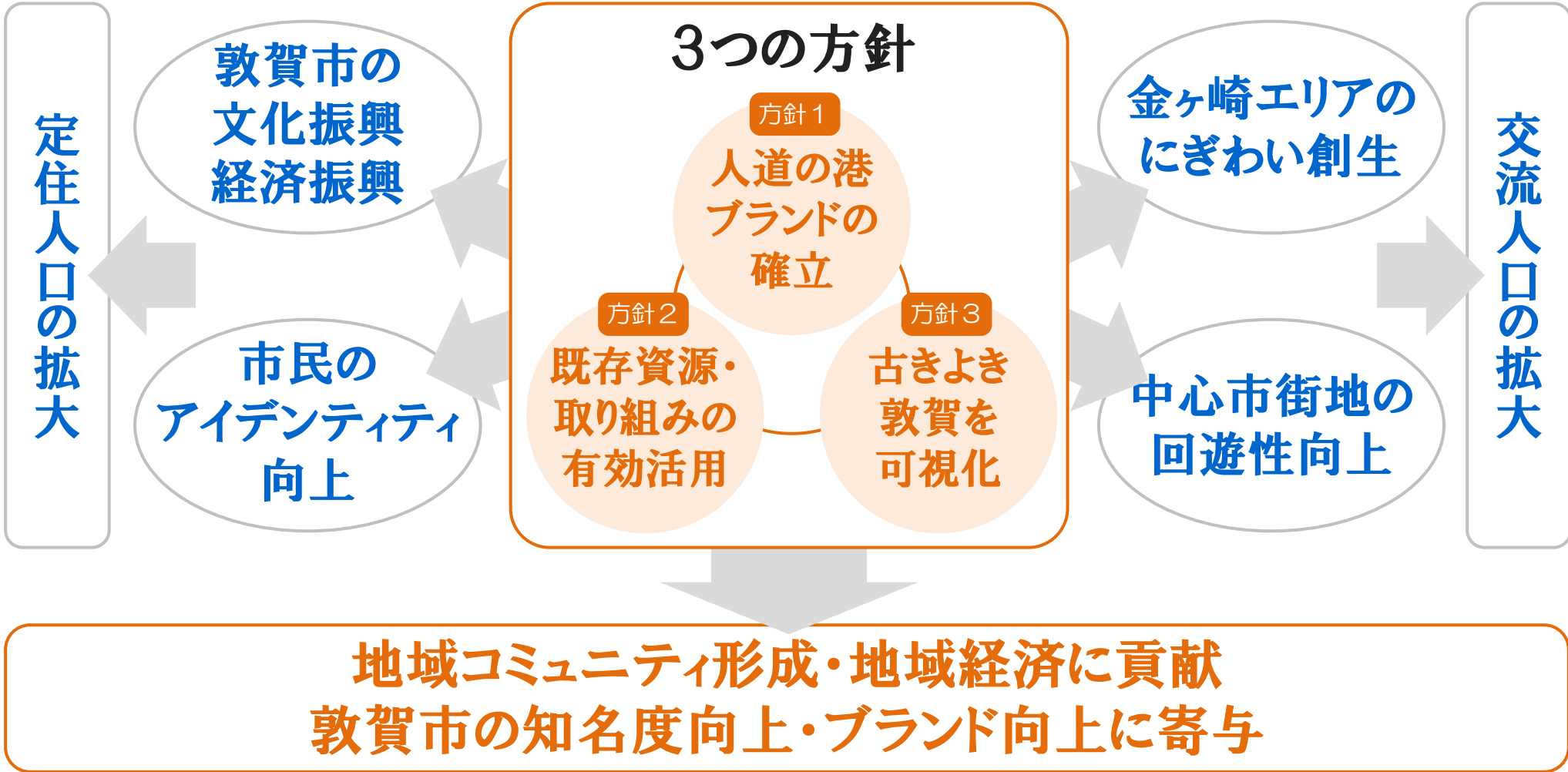
(2) 命と平和の大切さ

- 敦賀の史実を通し、「命」の尊さ、「平和」の大切さを伝え、考えてもらう機会を提供する。
- 東アジアの緊張、中近東や欧州の混乱等、現在の世界情勢が不安定だからこそ意義がある。



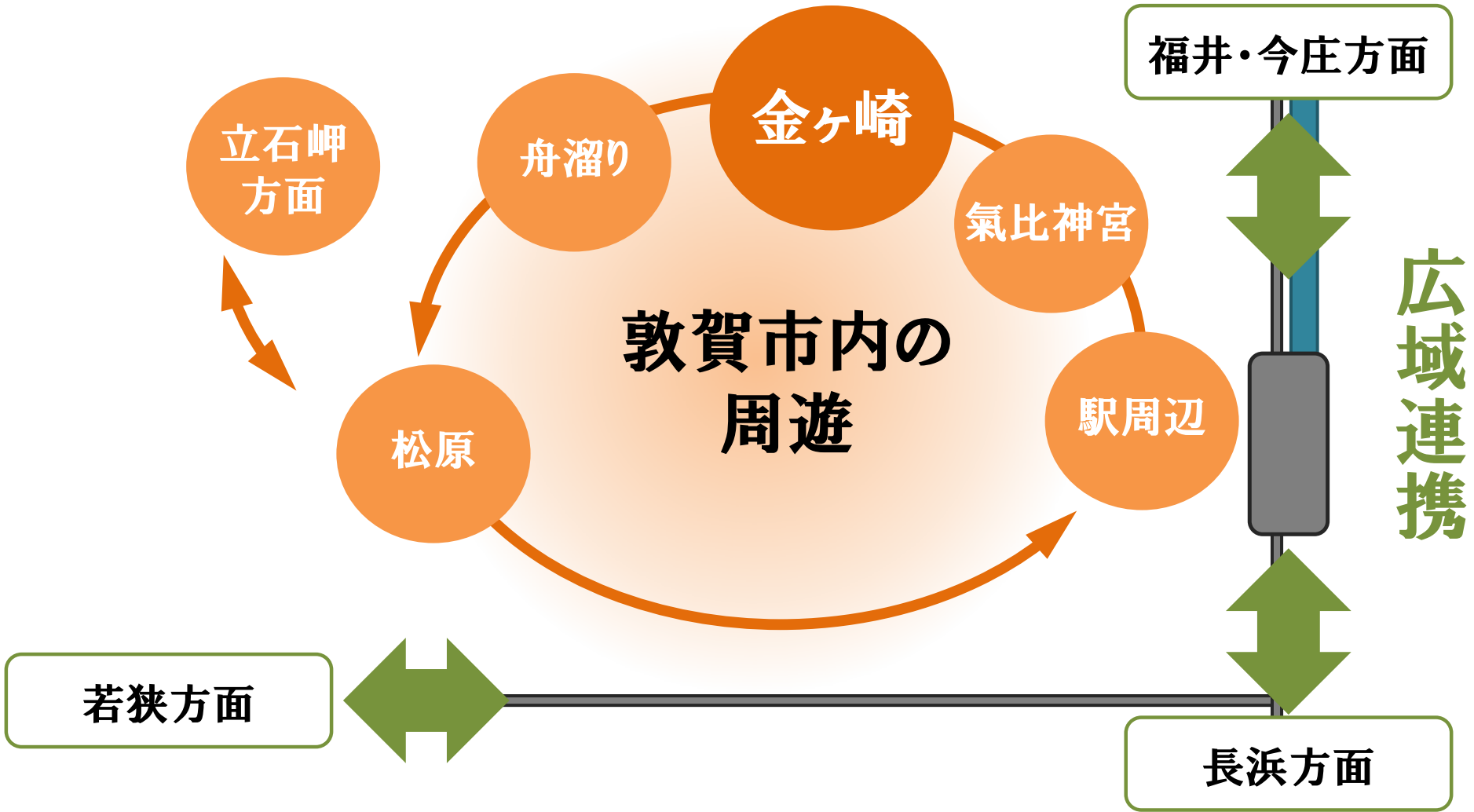
3. 整備の効果

金ヶ崎を訪れること自体が目的となるような、「圧倒的な存在感」を示すストーリーをかたちづくる



3. 整備の効果

金ヶ崎周辺エリアのにぎわい形成により
市内の観光資源がつながる。広域連携へ広がる。



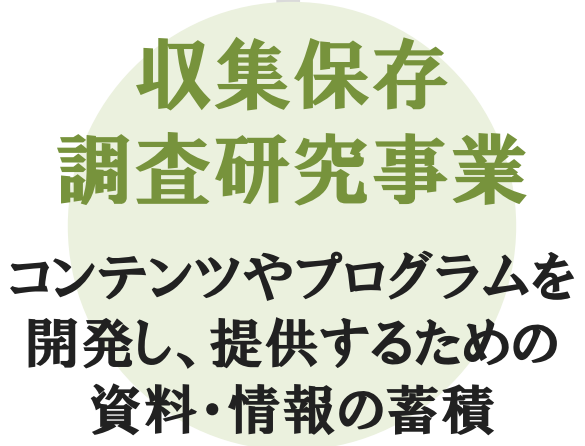
4. 展開する事業

資料や情報は蓄積して、中核事業拡充を下支え

(1) 中核として展開する事業



(2) ベースとなる事業

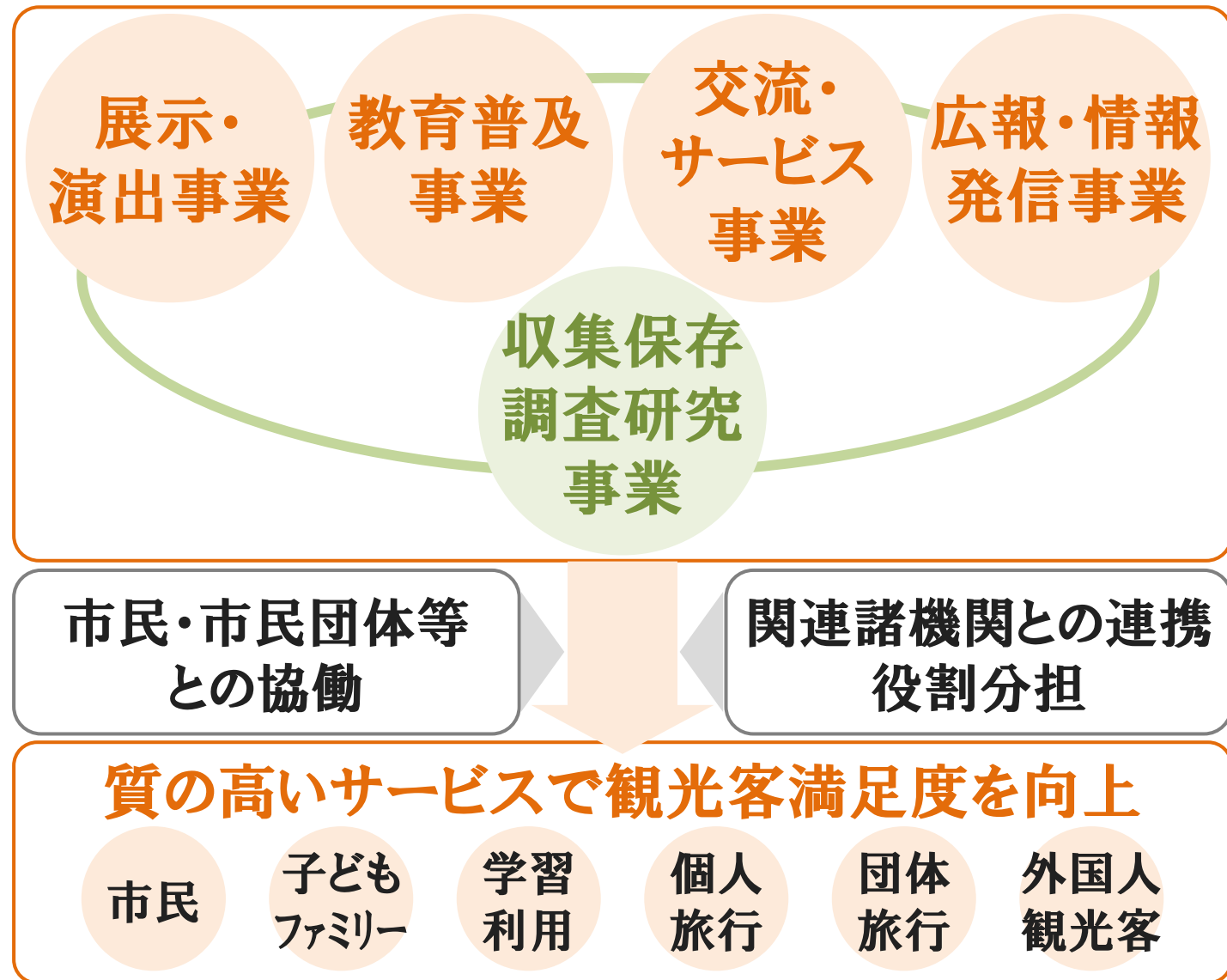


5. 事業計画

1. 基本的な考え方

協働・連携により、人道の港ブランドを確立・拡充

- 金ヶ崎周辺エリアは、敦賀市の新たなシンボルエリアとして、敦賀市観光の中心的な役割を担い、敦賀市を訪れた観光客をもてなす。
- そのため、市民協働や関係機関との協働・役割分担を行いながら人道の港ブランドの確立・拡充を行っていく。



1. 基本的な考え方

多様な属性の観光客に向け、金ヶ崎周辺エリア全体で
きめ細やかに諸事業を展開

市民に 愛される

- 市民に愛される施設にこそ多くの人を訪れる。
- 市民がいつでも気軽に立ち寄れる活動を展開する。

来訪の少ない層を 取り込む

- 関西・中京圏の観光客を大切にしつつ、来訪の少ない関東圏の観光客や海外の観光客を呼び込む。

何度でも 来てもらう

- 金ヶ崎をはじめ敦賀の様々な魅力を知ってもらい、また来たいと思ってもらえるようにする。

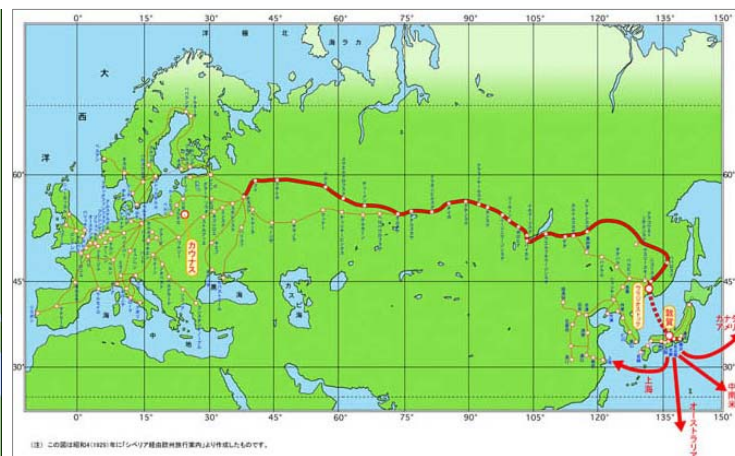
2. 展示・演出事業 **金** **ム** **鉄**

凡例：**金** 金ヶ崎周辺エリア全体で展開する事業
ム 主にムゼウムで展開する事業
鉄 主に鉄道遺産で展開する事業

往時の雰囲気の中で、命や平和の大切さを考える

(1) 人道の港の顕在化

- ポーランド孤児やユダヤ人難民の軌跡と、敦賀市民との交流の逸話を紹介する。
- なぜ彼らは敦賀港を經由したのか、日本における近代の敦賀港の役割や、当時の国際情勢等を紹介する。
- 収集保存・調査研究の成果を基に、常に新しいコンテンツを開発して利用者に提供する。



当時の世界情勢等、歴史的背景をより詳しく紹介



更新性の高い展示設備を導入して、常に新しいコンテンツを提供

2. 展示・演出事業 金 ㄥ 鉄

往時の雰囲気の中で、命や平和の大切さを考える

(2) 敦賀の輝かしい時代を演出

- 東洋の波止場と謳われ、欧州からの日本の玄関口として、国際物流・人流を支えた近代の敦賀港の雰囲気を再現する。
- これまでの取り組みを拡充し、四季折々の演出を展開。
- 市民も観光客もいつ来ても異なる演出で楽しめるようにする。



鉄道と港で栄えた戦前の情景とにぎわいを目に見える形で再現

3. 教育普及・啓発事業 金 ム 鉄

学校教育や社会教育のプログラムを開発・提供

(1) 人道の港を市民へ伝える

- 学校と連携し、市内の小・中・高の子どもたちに優しい人がいたまちや、博愛の精神を知ってもらうプログラムを立案・実施する。
- 講座・講演・説明会等、市民にもよく知ってもらうプログラムを立案・実施する。
- 活動の担い手育成に関するプログラムを立案・実施する。



福井子ども歴史文化館の教育普及活動
(福井の先人や歴史を楽しんで体験できるプログラム)



戦争体験談を語り合う



ボランティア活動

3. 教育普及・啓発事業 **金** **ム** **鉄**

学校教育や社会教育のプログラムを開発・提供

(2) 学習旅行や観光客へ伝える

- 多様なニーズに応じたプログラムを立案・実施する。
- 県内・近隣県の社会科見学や、首都圏等、遠隔地の修学旅行の受入を行う。
- 団体観光客の受入を行う。
- 多くの個人観光客を受け入れるため細かなニーズに対応できるようにする。
- インバウンドへも対応する。



学習旅行やインバウンド向けボランティア解説
(広島平和記念資料館・平和記念公園)



4カ国語対応シアター
(大坂城天守閣)



3カ国語映像解説 (日英中)
(立山博物館)

4. 交流・サービス事業 **金** **鉄**

施設利用を促す利便性の提供と多彩なイベント展開

(1) 利用者への利便性提供

- カフェやショップ等、市民や観光客への楽しみを提供する。赤レンガ倉庫や民間施設と相乗効果が生み出せるようにする。
- 無料で居心地良く休憩できるようにする。
- 駅前や他のエリアと連携しながら街あるきガイドのサービスを提供できるようにする。
- 手話や通訳等、あらゆる観光客をおもてなしできるようにする。



国立新美術館ミュージアムショップ(国立新美術館HP)



三菱一号館美術館カフェ
明治27(1894)年の当時の図面等により忠実な復元
(三菱一号館美術館HP)



山居倉庫。旧建築をリノベーションしたサービス空間
(山形県観光物産協会HP)

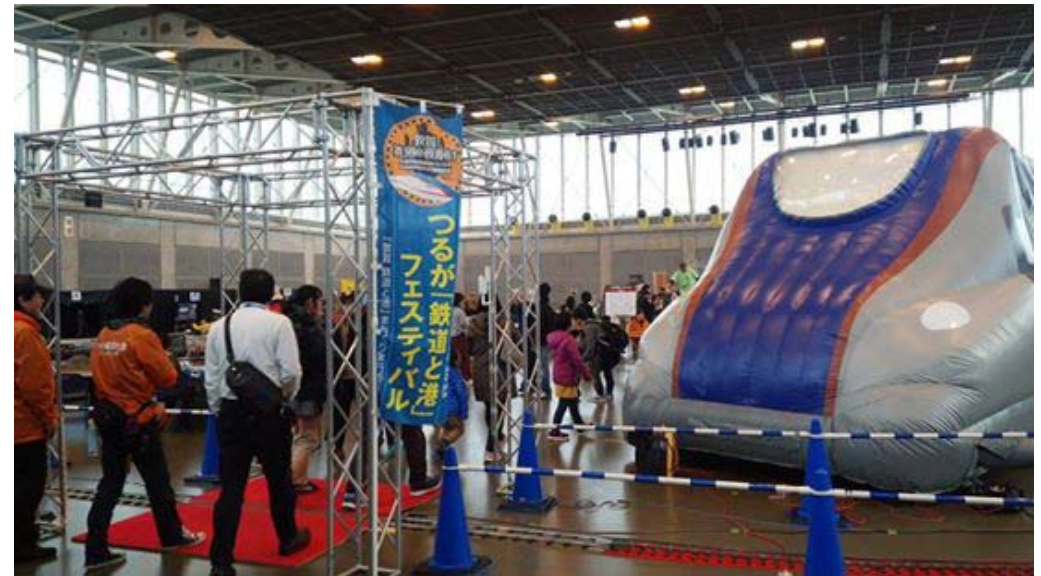


4. 交流・サービス事業 ④ 金 鉄

施設利用を促す利便性の提供と多彩なイベント展開

(2) 市民が盛り上げるイベント

- 敦賀のノスタルジックな景観を活かしたイベントを企画し、年間を通して実施する。
- 市民が気軽に楽しめるイベントを展開する。
- 市民らが中心になってイベントを定期的に行う。敦賀と言えば「〇〇」とイメージできるような、知名度の高いイベントへみんなが育て上げる。



例えば、鉄道フェスティバルやミライエは、大正時代のコスプレで参加する等して参加性や話題性を高める

5. 広報・情報発信事業 **金** **ム** **鉄**

多くの人に興味を示してもらえるような情報発信

(1) インターネットの効果的活用

- ホームページやSNSを充実させ、日常から活発に情報発信を行う。
- “パブネタ”を常に提供し、マスコミやネットで金ヶ崎エリアが取り上げられやすいようにする。
- “いいね！”をたくさんつけてもらい、クチコミで金ヶ崎エリアの存在が広がっていくようにする。
- インバウンドに向け、情報発信は多言語化する。



「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会のFacebookブログやTwitter等、SNSをフル活用して日々の情報を発信できるようにする

日本最大のミュージアム・ポータルサイト「インターネットミュージアム」特集ページを組んで多くの人にムゼウムを中心とする金ヶ崎を知ってもらう

5. 広報・情報発信事業 **金** **ム** **鉄**

多くの人に興味を示してもらえるような情報発信

(2) ターゲットごとに情報を提供

- 趣味、性別や世代等、**ターゲットを設定**するとともに、ニーズを分析した上で情報を提供する。
- 常にターゲットを意識し、プログラムやイベントを立案するとともに、それらに向けた**情報発信**を行う。



台東区は、89言語でホームページの閲覧が可能



様々なジャンルのファン層に向け、敦賀オリジナルのツアーを企画して売り込む

6. 収集保存・調査研究事業

人道の港ブランドの源泉となる資料や情報を蓄積・研究

(1) 情報を集約し未来へ継承

- ポーランド孤児やユダヤ人難民に関わる資料(実物・写真・映像・音声等)や情報を収集し蓄積する。
- 当時の市民等が残した資料(メモや日記、写真)について情報を収集する。
- 福井県や国に働きかけ、公文書等の資料や情報を収集する。
- 海外の資料・情報も収集する。



例えば、命のビザのユダヤ人の子孫へコンタクトをとり、ヒアリングして情報収集する



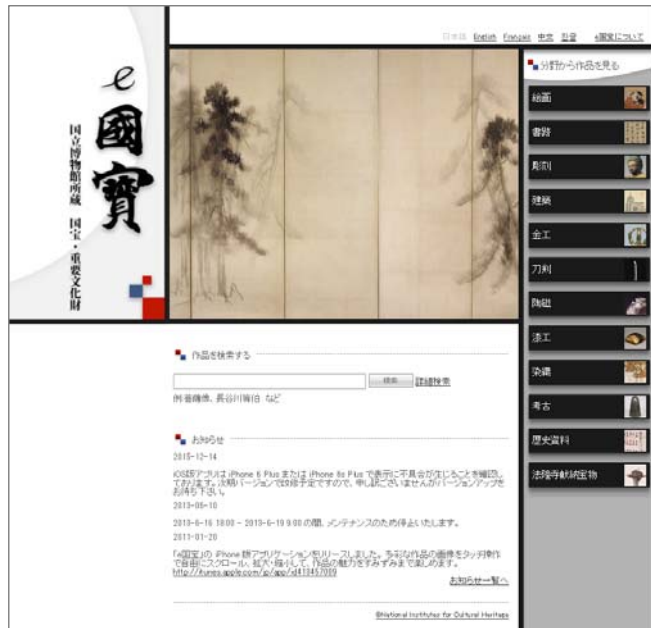
ホロコースト博物館（ワシントンD.C.）等、海外へも情報収集

6. 収集保存・調査研究事業 ㊦

人道の港ブランドの源泉となる資料や情報を蓄積・研究

(2) 活動の成果を事業に反映

- 収集・保存する資料・情報は使いやすいように**データベース化**。
- 関連諸機関との連携や、市民・市民団体の参画と協働により調査研究を行う。
- 活動の成果は、展示や教育普及の事業活動に反映するとともに、出版物やホームページ等を通して**広く一般に公開していく**。



e国宝
国立博物館所蔵 国宝・重要文化財検索システム



すみだ北斎美術館
全資料横断検索システム

7. 事業展開の効果

ターゲットごとの興味を分析し、真に求められる事業を展開

敦賀市民

- とにかく居心地が良い。
- いつ来ても誰かに会える。
- ここへ関わることで仲間ができる。やりがいを持てる。

子ども・学習旅行

- 学校や家庭では出来ないような遊びや体験ができる。
- 道徳・歴史(郷土史)・平和教育等の教材として(教員側)。

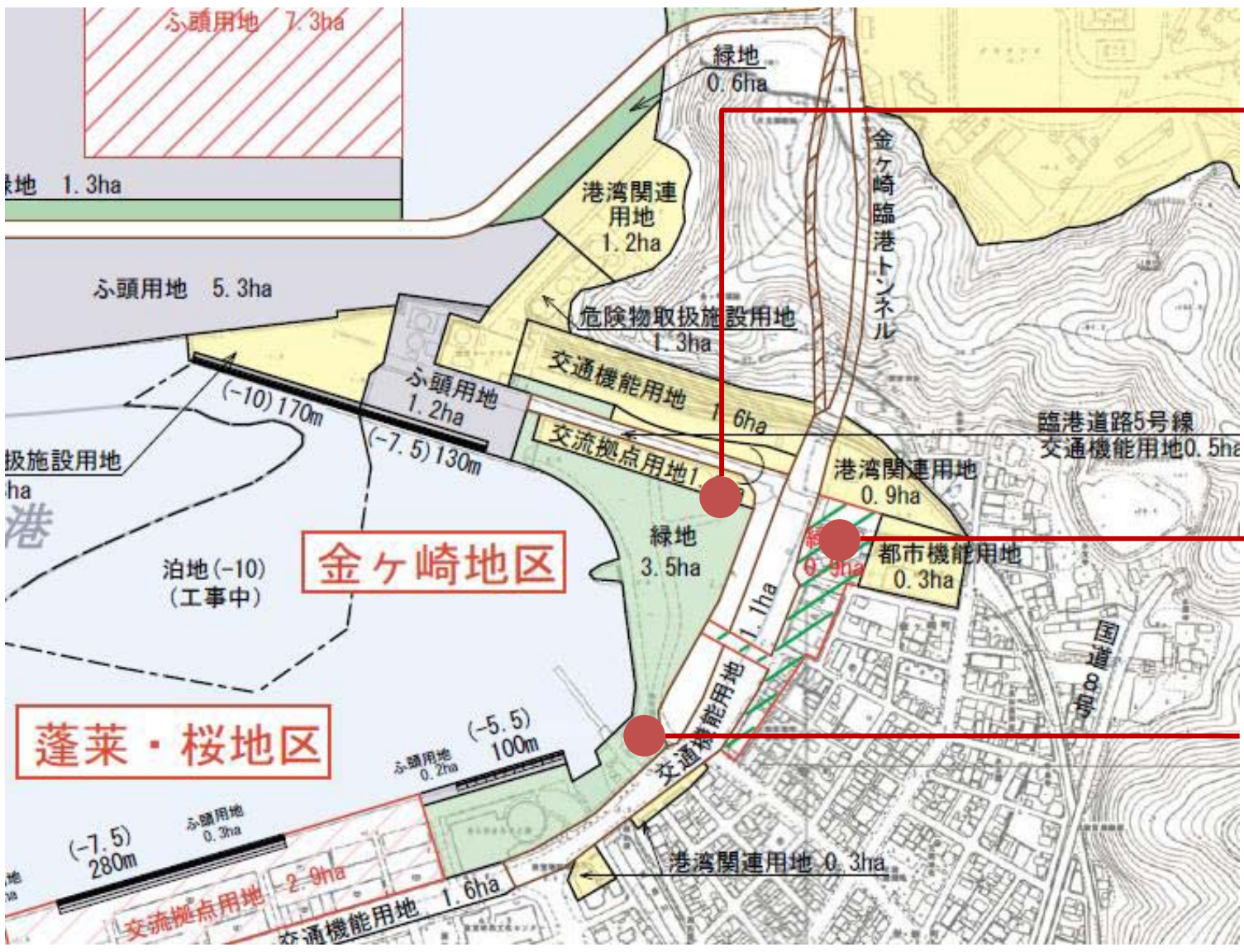
観光客

- 居心地が良い。休憩できる。
- 珍しいものが見られる、体験できる。楽しい思い出ができる。
- 命と平和の大切さを深く知る。
- 日本らしいおもてなし。
- 都会とは違う、日本の文化や食に触れることができる。
- 日本人の美徳を改めて知る。

6. 金ヶ崎周辺エリアの機能計画

1. 敷地の概要

(1) 現況図



人道の港
敦賀ムゼウム

赤レンガ倉庫

旧敦賀港駅舎
(敦賀鉄道資料館)

敦賀港港湾計画図

1. 敷地の概要

(2) 土地所有区分

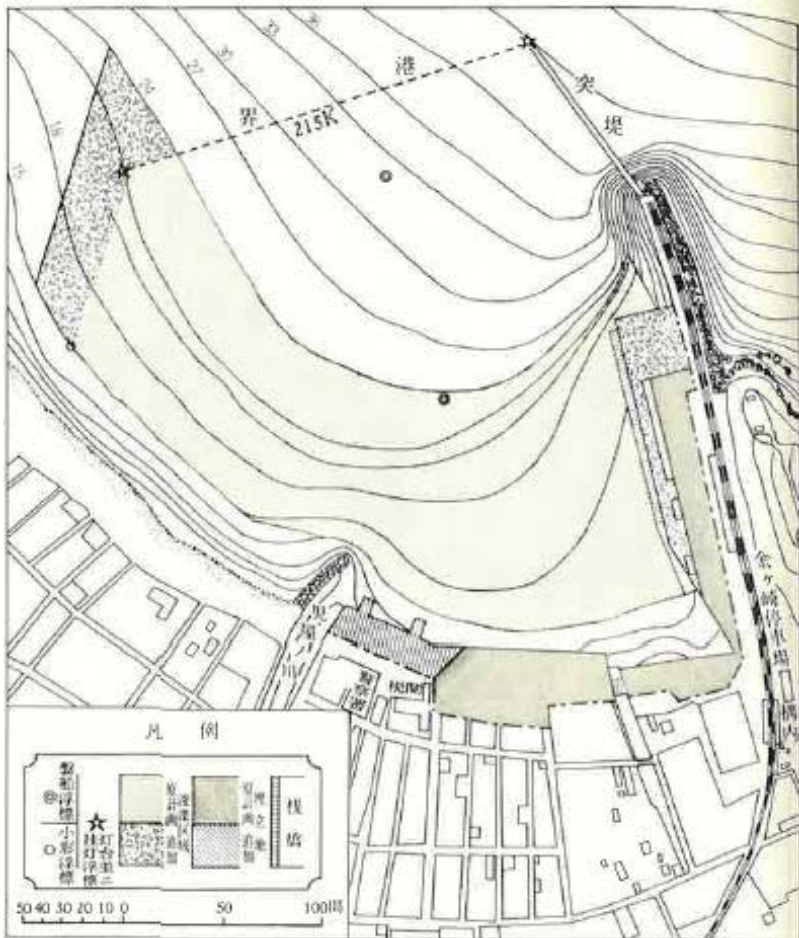


公図転写連続図より

1. 敷地の概要

(3) 海岸線の変化(大正初期)

- 大正2年に竣工した第一期港湾修築工事以後の古写真。現在では、埋め立てにより当時の景観は失われている。

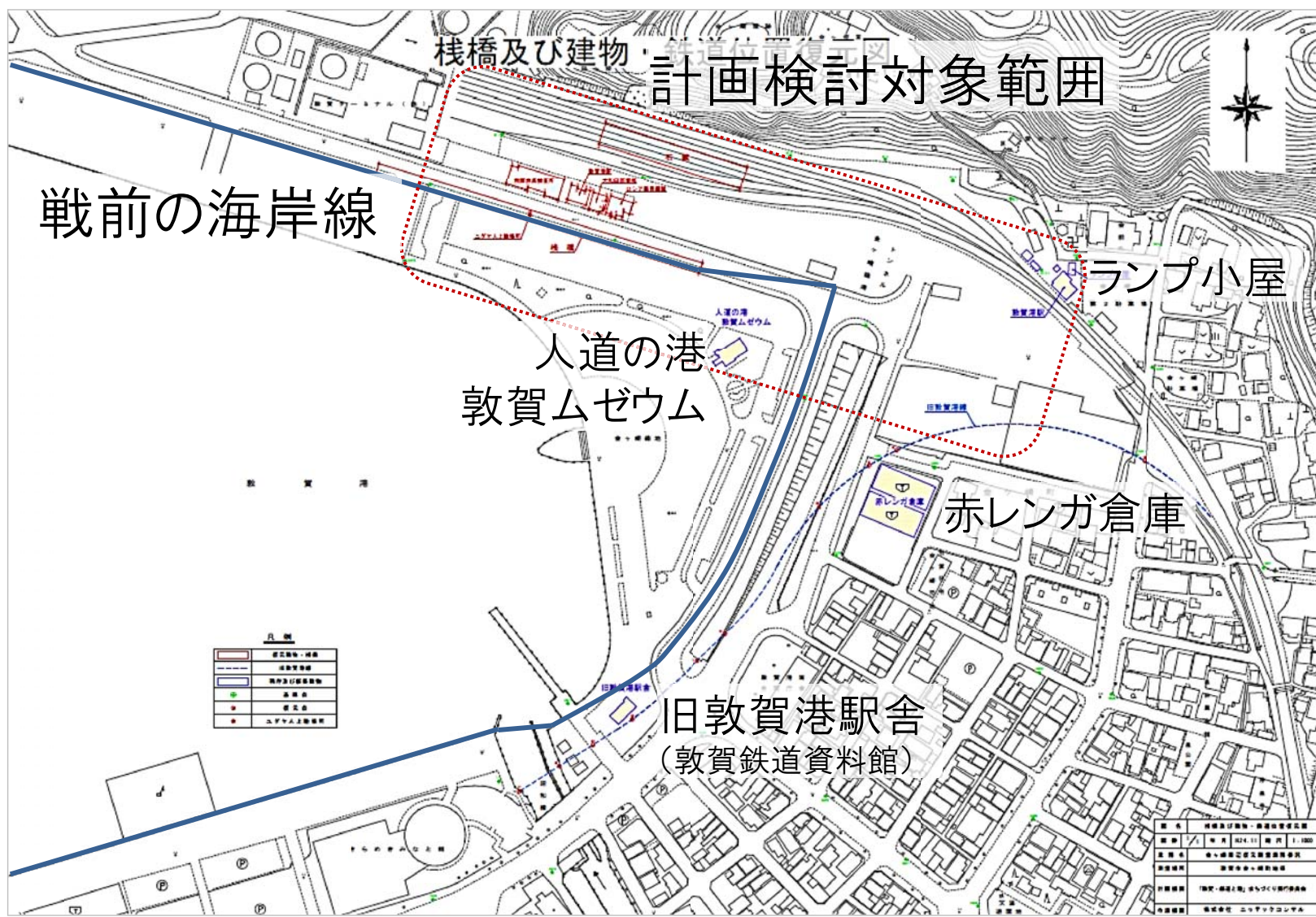


写真：大正時代の敦賀港（敦賀みなと振興会HP）

図：第一期港湾修築図（「敦賀市史 通史編下巻」）

1. 敷地の概要

(4) 海岸線の変化(現在)



2. 整備方針

古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

(1) 金ヶ崎エリア全体の整備方針

- エリア全体を市民が気軽に利用できるようにする。
- 周辺との一体的な整備により景観を整える。
- 既存資源を活かし、それらの間を楽しく散策できるようにする。
- 古き良き敦賀を可視化するため、失われた建築物・建造物等の復元を検討する。
- ボランティアや市民団体等の活動拠点となる機能を設ける。
- バスや乗用車の駐車場を確保して観光客の利便性を高める。

2. 整備方針

古き良き雰囲気の中で、平和と博愛を考える場の提供

(2) ムゼウムの整備方針

- 平和と博愛を考える場の中心的存在として、展示や教育普及等、十分な事業活動ができる規模を検討する。
- 学習旅行等、団体観光客を十分に受け入れられるようにする。
- 赤レンガ倉庫や鉄道資料館等、エリア内の既存施設と役割分担し、相乗効果を生み出せるようにする。

(3) 鉄道遺産の整備方針

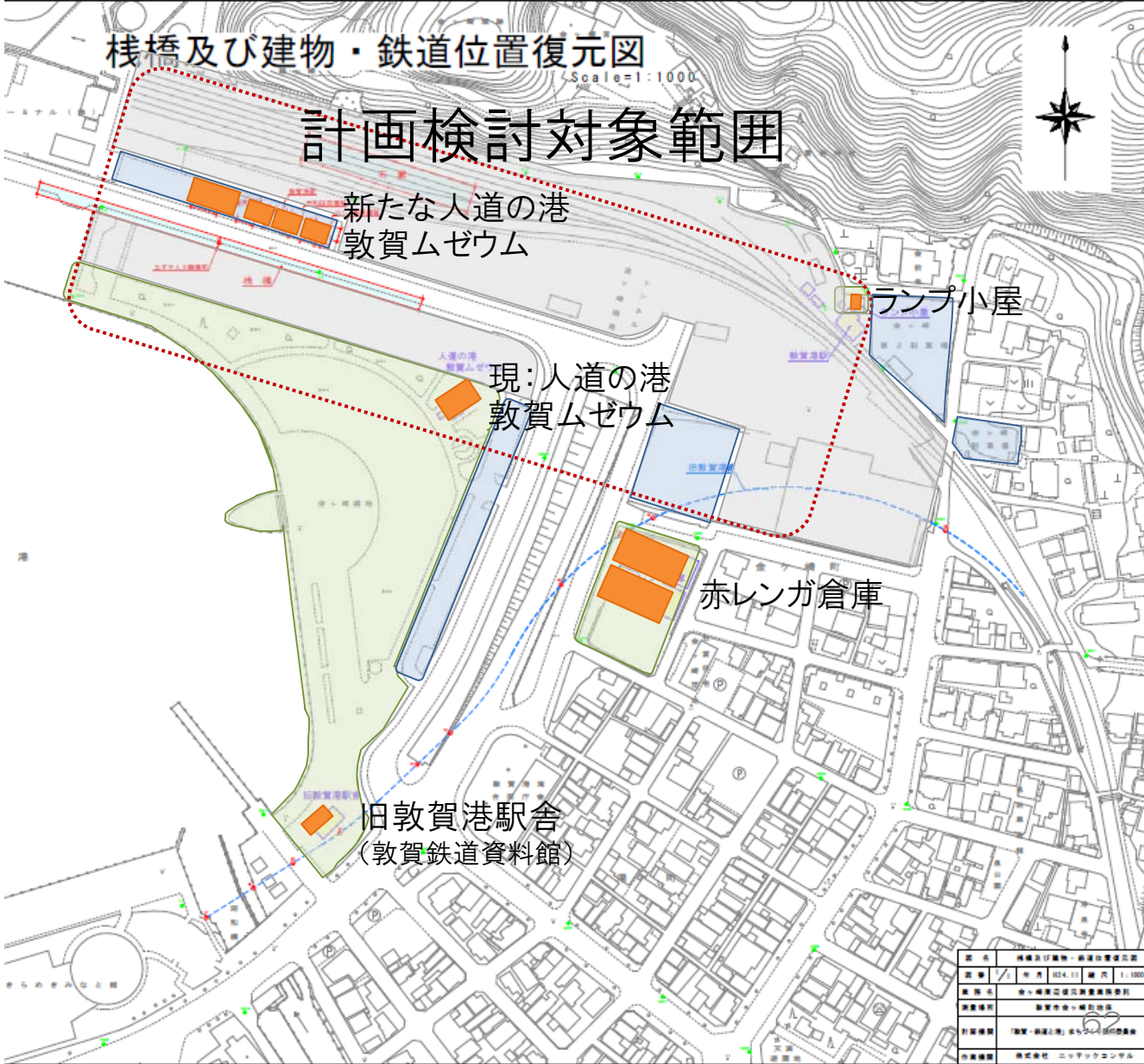
- ランプ小屋や軌道等、エリア内の港線の既存設備を有効活用する。
- 敦賀駅からエリアまでの軌道の活用を検討し、市内の回遊性を生み出す。
- 敦賀駅の旧転車台を移転し活用する(車両展示も視野)。
- 北陸本線トンネル群等、市内外の鉄道遺産と連携できるようにする。

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 既存資源は点として存在し、線で結ばれていない。
- 各資源間は、広大な立ち入り禁止区域や道路が横たわり、徒歩で移動するには大きく迂回していく必要があり、回遊に不便（特にランプ小屋が顕著）。

歩行空間
駐車場
立ち入り禁止



3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 各資源間は、実際に歩いてみると地図で見るより遠い印象を受ける。
- 資源間を横たわる道路の存在が大きく、心理的に距離感がある。
- 徒歩でもアプローチしやすい工夫が必要。



現ムゼウム裏から赤レンガ倉庫



復元4棟予定地から現ムゼウム



ランプ小屋から現ムゼウムと復元4棟予定地³

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 対象範囲の東端に位置するランプ小屋は、現状、大きく迂回しないとアプローチできない。



大きく迂回が必要



建物裏からのアプローチ



廃坑となったトンネル(未利用)⁴

3. 機能構成の課題

(1) 共通事項

- 復元4棟の予定地は、戦前は栈橋を挟んで海岸に接していたが、埋め立てにより海岸線が遠のいている。
- 往時の雰囲気を再現するためには、周辺の修景が必要。



道路左手が戦前の栈橋に相当



予定地の後背は山林



眺望の確保には修景が必要



現ムゼウムと距離感はない^⑤

3. 機能構成の課題

(2) 個々の事項

① 現・人道の港敦賀ムゼウム

- 金ヶ崎緑地休憩所として、大和田別荘を模し福井県が設置。
- ムゼウム機能を復元4棟に拡充移設するため、今後の利活用のあり方について検討が必要。



② 敦賀赤レンガ倉庫

- 平成27年に開館し、指定管理者が運営。
- 飲食物販とノスタルジオラマ(鉄道ジオラマ)の2つの機能を活かしつつ、全体整備によって相乗効果を保つことが必要。



3. 機能構成の課題

(2) 個々の事項

③旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

- 敦賀港駅舎を模し、つるが・きらめき・みなと博21(平成11年)の開催時に設置。
- 復元4棟で敦賀港駅舎を復元するため、位置付けの整理が必要。



④ランプ小屋

- 現在も使われている敦賀港駅舎や、廃坑となったトンネル等、隣接する鉄道遺産とあわせた活用が必要。



4. 金ヶ崎周辺エリアに必要な機能

にぎわい形成とともに、人道の港のブランド化

(1) にぎわい形成

- 敦賀ノスタルジアムを感じさせる景観の演出
- 国内外の観光客の受入とおもてなしの提供
- 国内外への広報・情報発信
- 個人旅行客への情報提供
- エリア全体で行うイベント
- カフェやショップ、多彩なアクティビティで楽しみを提供

エリア全体及び鉄道遺産の活用で担う

(2) 人道の港のブランド化

- 資料の収集保存・調査研究
- 学習旅行や国内外の観光客へ向けた、展示・教育普及による命と平和の大切さの訴及

人道の港ムゼウムで担う

4. 金ヶ崎周辺エリアに必要な機能

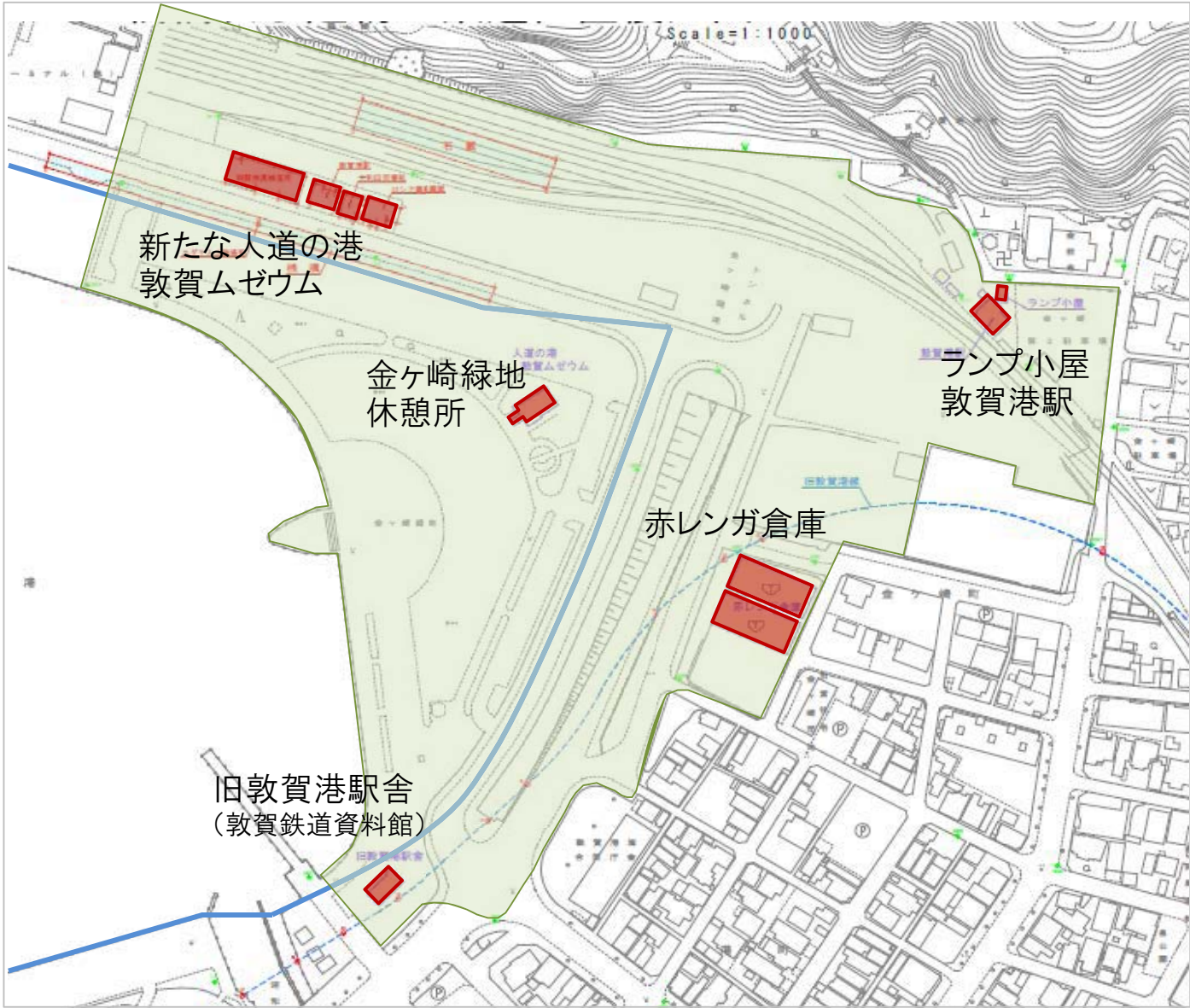
(3) 基本的な考え方

- 市民が日常的に集い、遊び、憩える場として整え、にぎわいを形成する。
- 多彩なイベントや四季折々の変化を楽しめる等、一年を通じて何度でも訪れたいくなるようにする。
- 誰でも等しく利用できるよう、ユニバーサルデザインを導入(バリアフリー・多言語等)。
- 安心・安全に利用できるように、エリア内の視認性をはじめ、防犯・防災機能を高める。
- 物理的な距離感を縮めたり、見やすく解りやすいサインを充実させ、エリア内の回遊性を向上させる。
- 各資源の役割分担を明確にして、必要最小限で高い効果を得られるようにする。

5. 機能配置(案)

周辺の既存資源と一体的に整備し回遊性を高める

- 復元4棟を新たな人道の港ムゼウムとして整備。
- 既存の金ヶ崎緑地や赤レンガ倉庫を含め、金ヶ崎エリアを面的に整備して一体感を形成する。



5. 機能配置(案)

周辺の既存資源と一体的に整備し回遊性を高める

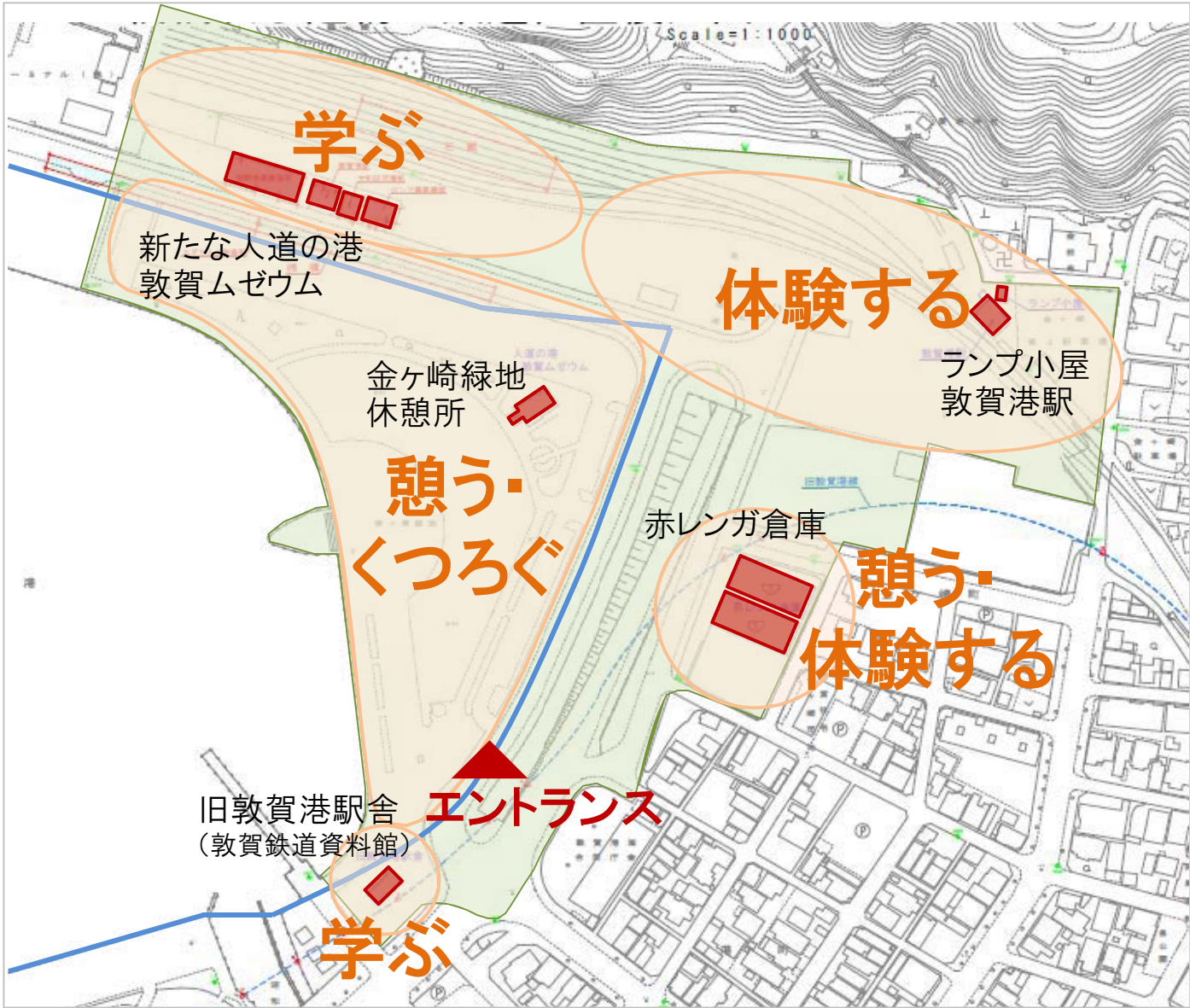
- 一体感を形成することにより、各資源がつながる。エリア全体で利用者の回遊性が高まる。



5. 機能配置(案)

各資源を中心に区画ごとに特徴化、より回遊性を高める

- 新たな人道の港ムゼウム(復元4棟)をはじめ、各資源を中心に区画ごとに特徴を出す。
- それぞれが役割分担して回遊性をさらに高める。



6. 区画ごとの機能(案)

(1) 憩う・くつろぐ

① エントランスの役割

- 一体的に整備された金ヶ崎エリアの導入の役割を担う。

② 駐車場の確保

- 訪れる利用者の利便性を確保するため、自家用車やバスの駐車場を可能な限り確保する。

③ 緑地の継続利用

- 既存の緑地は現状を維持し、市民や観光客の憩いやくつろぎの場として利用する。



統一された案内サインを整備して導入から解りやすく
(岐阜県:関ヶ原古戦場)



緑地は憩いやくつろぎの場として現状維持

6. 区画ごとの機能(案)

(1) 憩う・くつろぐ

④ 金ヶ崎緑地休憩所に必要な機能

- 利用者の休憩機能、便益機能。
- 金ヶ崎周辺エリアの管理機能。
- エントランスの役割を果たすための総合案内所。
- エリア全体の諸事業をサポートできる、ボランティアの拠点機能。



相談デスクや多言語のパンフ等により利便性を提供
(左:敦賀駅観光案内所・右:京都総合観光案内所)



エリア内で行われる様々な事業のサポートを実施
(写真は観光クルーズ船のボランティア)

6. 区画ごとの機能(案)

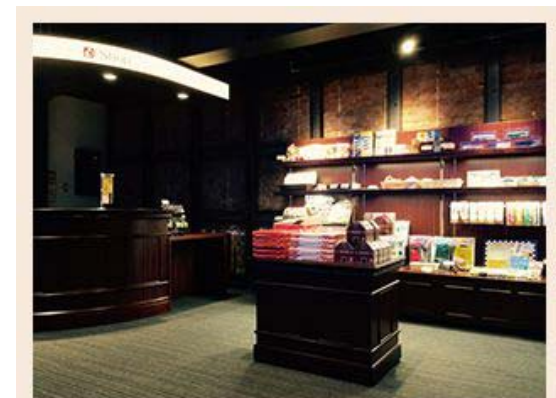
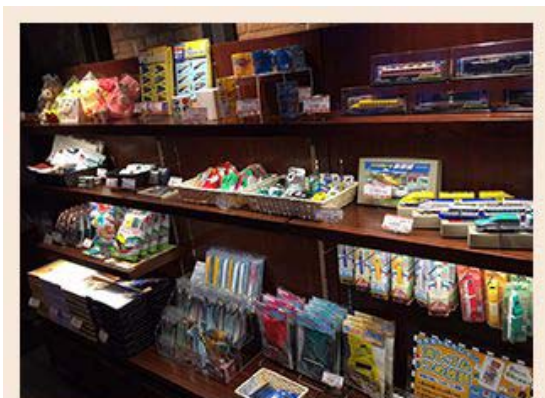
(1) 憩う・くつろぐ

⑤ カフェ・ショップ機能の誘致

- 金ヶ崎エリアを周遊する市民や観光客に、憩いやくつろぎを提供したり、買い物の楽しみを提供するため、民間資本の誘致を前提にカフェ・ショップ機能を設置する。
- 赤レンガ倉庫の機能と重複しないように、軽食中心のメニューとしたり、ムゼウムのミュージアムショップ的な役割を担う等、商品構成等は慎重に検討していく。



海の見えるカフェ



赤レンガ倉庫のショップ(赤レンガ倉庫HP)

6. 区画ごとの機能(案)

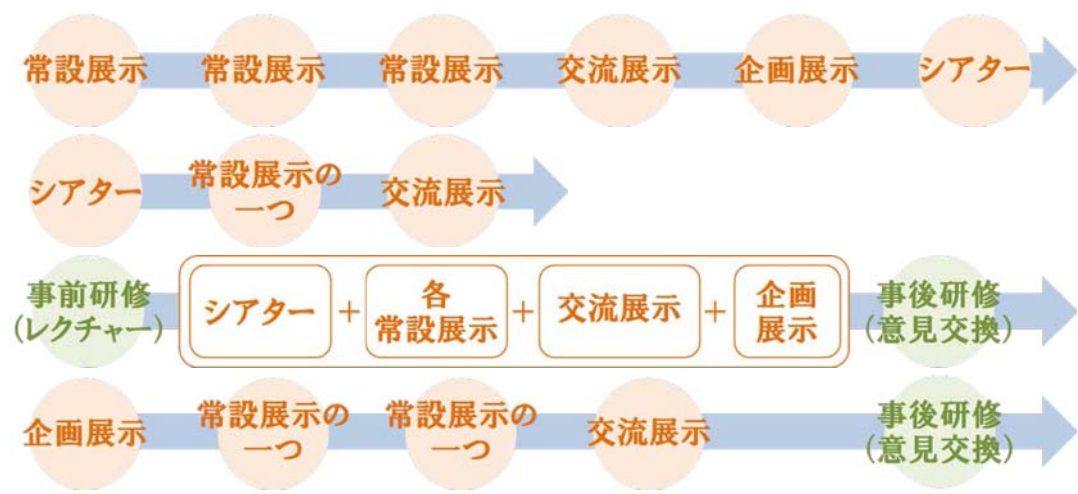
(2) 学ぶ

① 復元4棟

- 敦賀ノスタルジアムを感じさせる景観を形成するとともに、ムゼウム機能を拡充移転する。
- 展示は基本的に現在の流れを踏襲しつつ、より解りやすく丁寧に敦賀で起きた出来事を伝える。
- 団体利用や学習利用に対応できるようにして、修学旅行等の誘致を目指す。



ムゼウムの展示構成(案)



様々な見学パターンを設定し、個人から団体まで多様なニーズに応えられるようにする

6. 区画ごとの機能(案)

(2) 学ぶ

②旧敦賀港駅舎(現:鉄道記念館)

- 鉄道資料館の機能を活かして利用し、主に戦前の敦賀の鉄道史を中心に紹介していく。



旧敦賀港駅舎の展示は再編整理し、当面はランプ小屋区画との
棲み分けを図っていく

6. 区画ごとの機能(案)

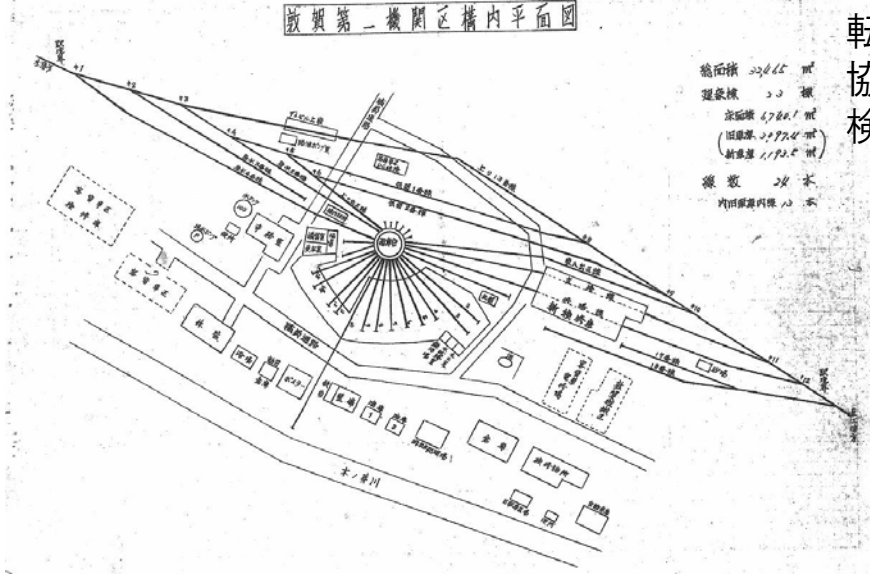
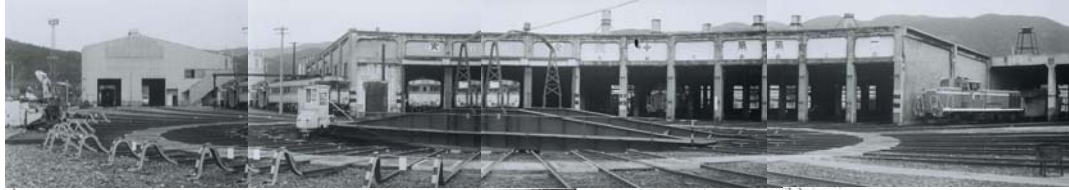
(3) 体験する

① ランプ小屋及び敦賀港駅舎

- 敦賀港駅舎(現:日本貨物鉄道所有)は修復し、ランプ小屋と併せて鉄道遺産を展示する場に。

② 転車台の活用

- 福井県が保管する敦賀駅の旧転車台は、県と協議しながら設置場所や活用方策を検討する。



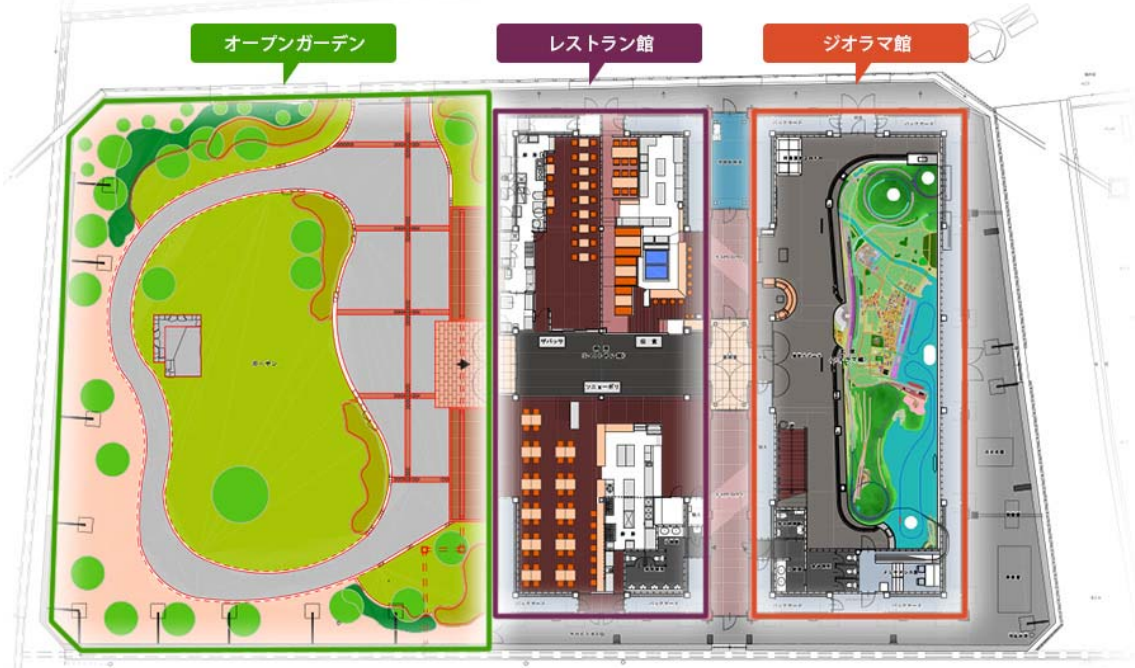
転車台は県と協議しながら検討を進める

6. 区画ごとの機能(案)

(4) 憩う・体験する

① 赤レンガ倉庫

- これまでの運営を継続させ、エリア全体との連携による相乗効果で市民や観光客の利用を促進し、より一層のにぎわいと交流を形成していく。

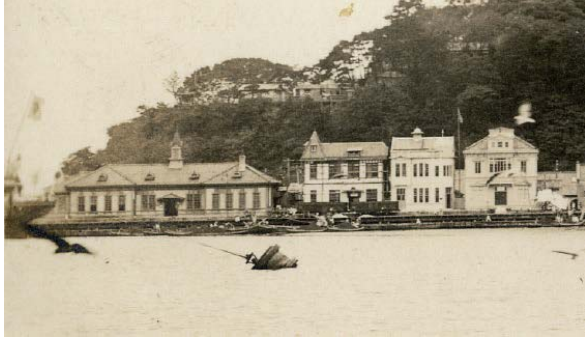


6. 区画ごとの機能(案)

(5) エリア全体で展開する事業

① 屋外の演出

- 復元4棟を中心とした景観の再現に留まるが、将来的には視界に広がる範囲全体が敦賀ノスタルジアムを感じさせる景観の再現を目指していく。
- ランドマークとなる印象的な建造物や、モニュメントの設置、ゆるキャラの登用等により、フォトジェニック(写真映え)な名所を構築。
- InstagramやTwitter等、SNSでムゼウムや金ヶ崎緑地が国内外に拡散していくことを目指す。



将来的には地区全体で戦前の景観の再現を目指す



福井駅恐竜広場 銀河鉄道999(敦賀市HP)



左:ツヌガくん 右:よっしー (敦賀市HP) 子ども育成プロジェクト (福井県HP) 人魚の像 (福井県HP) 水晶浜(ふくいドットコムHP)

6. 区画ごとの機能(案)

(5) エリア全体で展開する事業

② 四季折々の変化を楽しめる

- 年間を通して何度も市民や観光客に訪れてもらうため、季節に応じた催しや景観の形成により、四季の変化が感じられるようにする。



春: 金崎宮の花換え祭



夏: 敦賀湾の景観の活用



秋: 緑地(芝生広場)の活用



冬: ミライエ

6. 区画ごとの機能(案)

(5) エリア全体で展開する事業

③ 日常的なイベント

- 定期的に朝市(マルシェ)を開催する等して、「金ヶ崎と言えバ！」と言われるような日常的なイベントを開催する。
- まずは市民が気軽に参加できるイベントを定期的に開催する。



七間朝市(大野市HP)



マルシェワンダーランド in Fukui_
越前陶芸公園(福井県HP)



福井駅恐竜広場のライトアップ
(福井県HP)



美浜の水中綱引き(福井県HP)

6. 区画ごとの機能(案)

(5) エリア全体で展開する事業

④ 非日常的なイベント

- つるが「鉄道と港」フェスティバルやミライエに加え、多彩な非日常的なイベントを次々に展開し、金ヶ崎エリアではいつも何か行われていることを、国内外に広めていく。



例えば、敦賀祭りの巡行ルートとしてエリア内を巡る



宇波西神社で奉納される王の舞
国選択無形民俗文化財(福井県HP)



満月会の月光ヨガ(福井県HP)



夜間の幻想的なイベント(松原海岸のとうろう流し)

7. 新たに入手する資料の活用

- 平成27年に運行を終了したトワイライトエクスプレスについて、JR西日本と部品譲渡を協議。
- 牽引車は敦賀地域鉄道部の所属車両で、敦賀に縁が深い。
- 鉄道ファンをはじめ多くの人々に人気があることから、これを有効活用して話題を高める。
- 鉄道資料館での展示や、カフェやレストランへの活用等を今後検討していく。



8. 周辺の鉄道遺産・港湾遺産との連携

- 眼鏡橋や北陸本線トンネル群等、敦賀市内の遺産を巡るツアー等により市内の回遊性を高める。
- 今庄方面や、長浜方面等との鉄道遺産と連携した広域連携イベント等を今後検討していく。

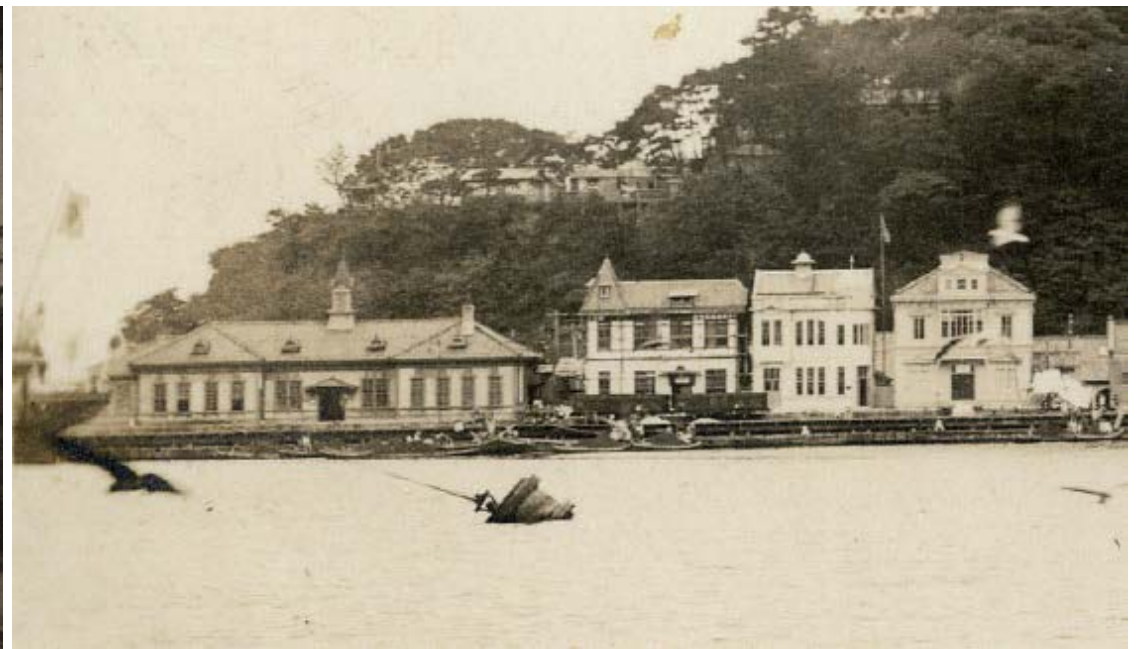


7. ムゼウムの機能計画

1. 配置計画

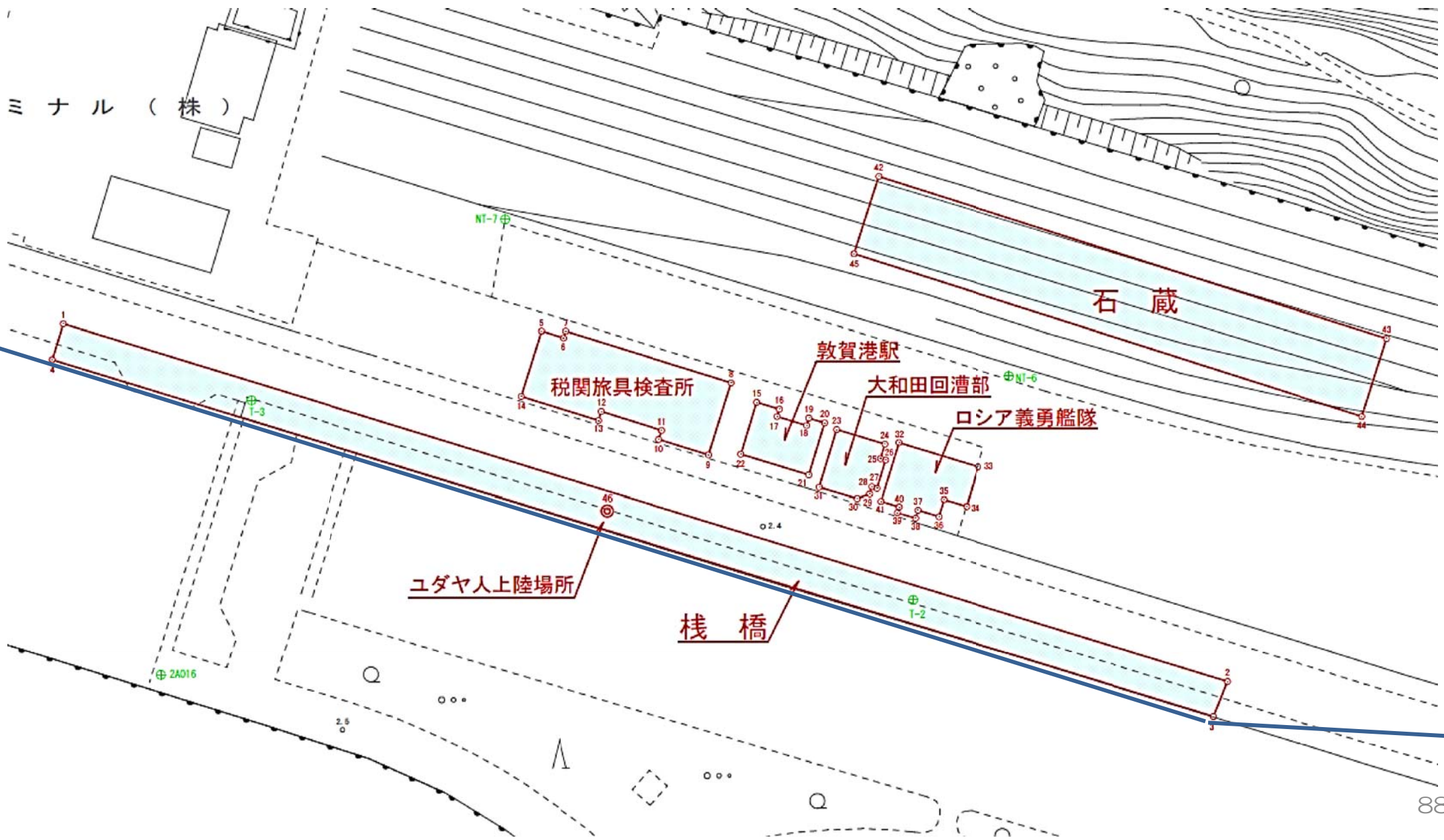
(1) 往時の4棟

- 敦賀ノスタルジアを感じさせる景観を可視化するため、大正～昭和初期頃の敦賀港棧橋周辺の景観を再現する。
- 税関旅具検査場、敦賀港駅、大和田回漕部、ロシア義勇艦隊の4棟を中心に、将来的に周囲の景観復元を検討。



1. 配置計画

(2) 復元4棟の配置計画



1. 配置計画

(3) 復元4棟のイメージ

- 埋め立てにより当時の棧橋から先は芝生化されているため、昔の棧橋の雰囲気再現しにくいことに留意。
- 建物復元だけでは演出不足で、往時の雰囲気が再現しにくい。



1. 配置計画

(4) 復元4棟の面積(表)

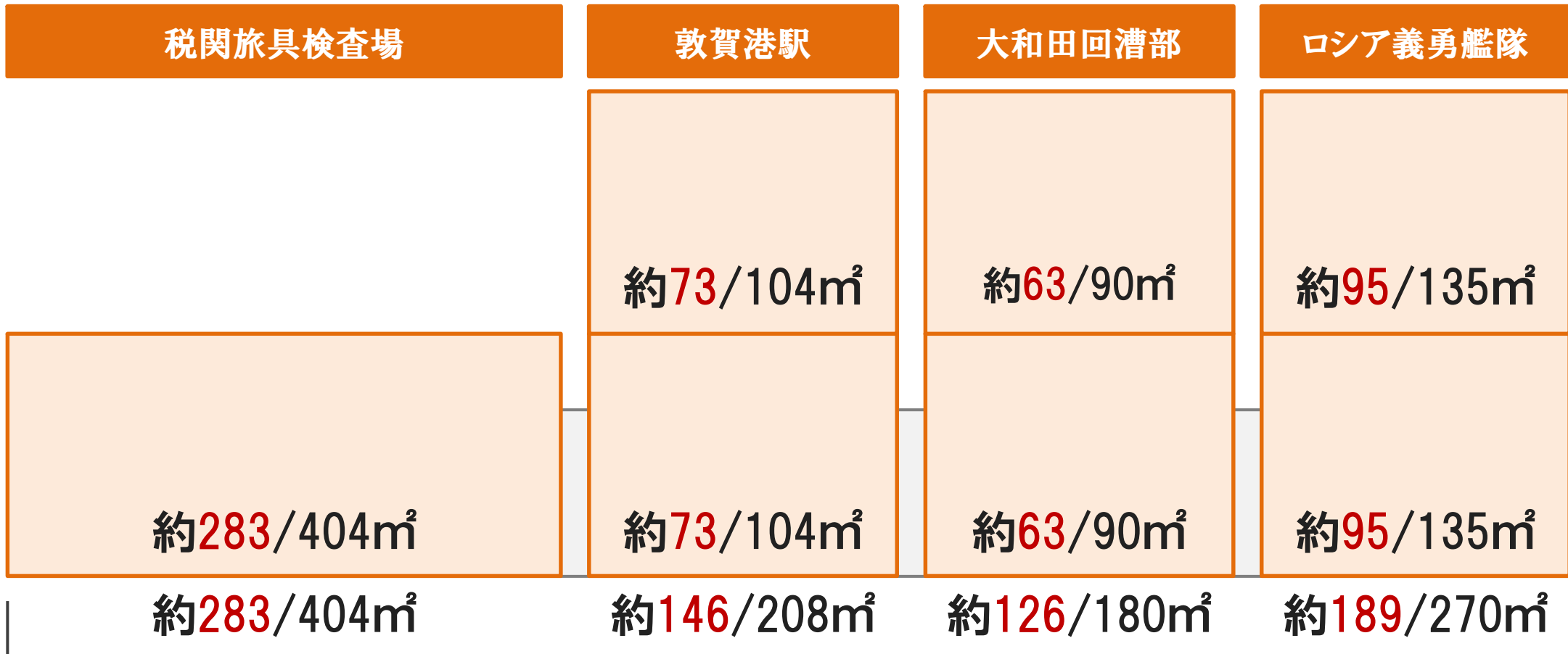
建築物	建物面積	階層	延床面積	有効面積
税関旅具検査場	約404m ²	1階	約404m ²	約283m ²
敦賀港駅	約104m ²	2階	約208m ²	約146m ²
大和田回漕部	約90m ²	2階	約180m ²	約126m ²
ロシア義勇艦隊	約135m ²	2階	約270m ²	約189m ²
合計	約733m ²	—	約1,062m ²	約743m ²

- 建物面積は、測量に基づく想定値。設計によって若干の誤差が出る可能性があることに留意。
- 有効面積は、共用部(通路・倉庫・設備スペース等)を除いた、実質的に利用できる面積。延床面積の約7割で設定。

1. 配置計画

(5) 復元4棟の面積(図)

- 現ムゼウムの延床面積278㎡、展示面積177㎡に対し、復元4棟の規模はおよそ3.8倍となる。

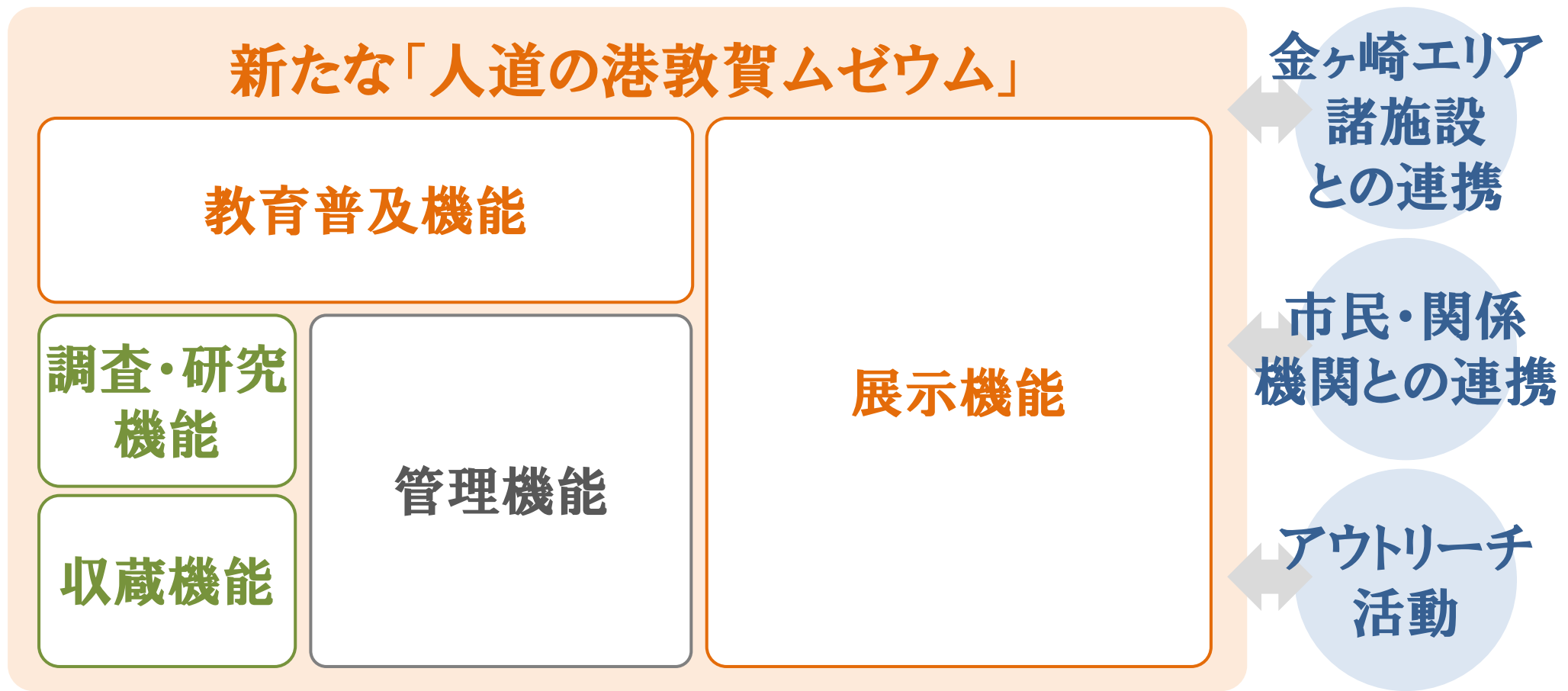


有効面積計:約743㎡/延床面積計:約1062㎡

2. ムゼウムの機能

(1) ムゼウムに必要な機能

- 主に展示機能に限定されている現在の機能を拡充し、諸事業の実現に十分な機能を確保する。



2. ムゼウムの機能

(2) 基本条件

- 主に展示機能に限定されている現在の機能を拡充し、**諸事業の実現に十分な機能を確保。**
- **団体見学者が余裕を持って利用できる広さを確保。**
(1団体40人≒団体バス約1台分/学校1クラス+ α 分で設定)
- 団体がストレスフリーで見学できる**展示諸室、シアター。**
- 団体が利用できる**研修室**(教育普及機能)。
- 往時を偲ぶための**眺望**の機能。
- 資料の受入や保存、調査研究ができる**収蔵・調査研究**スペース。
- 事業活動や維持管理に必要な**管理機能**(**事務スペース**)。

2. ムゼウムの機能

(3) 収蔵機能（収蔵機能と調査研究機能で想定面積約81㎡）

- 資料の形態や状態に応じて適切な環境で保存し、使いやすく整理できる収蔵庫を設ける。
- 環境の変化に脆弱な資料のため、恒湿の環境を整える。
- 資料や情報は将来的に増加することに留意する。

(4) 調査・研究機能

- ポーランド孤児やユダヤ人難民、敦賀の港湾史・鉄道史等の調査・研究に必要な作業スペースを確保し、備品等を整える。
- 市立博物館との機能分担や連携に留意する。

2. ムゼウムの機能

(5) 展示機能

①常設展示（常設展示3室各57㎡で想定面積計：約171㎡）

- 現在の展示構成を踏襲しつつ拡充し、近代の敦賀の港湾や鉄道に関する情報や、ポーランド孤児、ユダヤ人難民、杉原千畝に関する情報や資料を展示する。

②交流展示（1室で想定面積計：約57㎡）

- ポーランド孤児・ユダヤ人難民その人、或いは遺族から政府関係者等、関連する人たちと敦賀の交流を展示する。活動を通し、発展拡張させていく。

③企画展示（1室で想定面積計：約57㎡）

- 特定のテーマを掘り下げ、敦賀市や関連諸機関の資料や情報を一定期間展示する。

2. ムゼウムの機能

(5) 展示機能

④シアター (想定面積約85㎡)

- 学習旅行や団体旅行等の大人数の利用者へ、同時に等しく情報が伝えられるように、映像コンテンツを上映できるシアターを設ける。複数のコンテンツを提供する。

⑤眺望 (設ける場合は他の機能へ兼ねさせる)

- 現在の敦賀港と、古き良き敦賀を眺望できる機能を設ける。

⑥屋外展示

- ユダヤ人上陸の場所をはじめ、歴史の舞台となった場所にはサインやアプリによって情報が得られるようにする。自撮りの名所としてSNS等で拡散できるようにする。
- 郊外の鉄道遺産等、ここを起点に市内全域を巡れるようなしなかけを整える。

2. ムゼウムの機能

(6) 教育普及機能 (想定面積約95m²)

- 講座や講演、ミニイベント等が行えるスペースを設ける。
- 学習利用や団体旅行の利用客を収容できることに留意する。
- 学習利用や団体旅行の利用者が離合集散できる場所を設ける。
- 学習利用時、雨天でもお弁当が食べられる場所を設ける。

(7) 管理機能 (想定面積約100m²)

- ムゼウムの管理運営に必要な、スタッフが活動しやすい規模を確保する。
- ムゼウムの広報・情報発信に関する業務を行う。

2. ムゼウムの機能

(8) 必要面積の概念 (図)

復元4棟:延床面積約1062m²

有効面積約743m² (設定)

諸機能に必要な面積:約646m² (設定)

教育普及機能

約95m²

調査・研究収蔵機能

約81m²

管理機能

約100m²

展示機能

小計:約370m²

(内訳)

常設展示:

57m²×3室=約171m²

交流展示:約57m²

企画展示:約57m²

シアター:約85m²

共用部面積
約319m² (設定)

- 建物に必要なその他の機能(通路、階段、ELV、トイレ、倉庫、機械室、PS等)。
- 延床面積のうち、約30%で設定。

3. 展示構成の考え方

(1) 現ムゼウムの展示構成

2F



1 "東洋への波止場"大陸への玄関・敦賀港
(1) 敦賀港のむかし
-1 江戸時代以前の敦賀港
-2 近世以降の敦賀港
(2) 敦賀港を通った人々
-1 外国人
-2 日本人
(3) 敦賀港を通った船と貨物
-1 大陸貿易主要貨物
-2 昭和の連絡船から
2 欧亜国際連絡列車
(1) シベリア鉄道
(2) シベリア鉄道と敦賀

3 ポーランド孤児
(1) 寒風吹きすさぶシベリアの荒野を飢餓と闘いながら放浪を余儀なくされた。
-1 敦賀に上陸した孤児たち
-2 シベリアの孤児たちの惨状
-3 孤児たちを救う人々
-4 孤児たちを迎える準備
(2) 浦塩ヨリ当港ニ上陸シタルニ付菓子・絵葉書等ヲ贈リ亦宿舎ノ斡旋等一行ノ慰撫ニ努メタリ
-1 さらに助け出される孤児たち
-2 受け入れする敦賀の人たち
-3 記憶と記録が残る敦賀
-4 敦賀から東京、大阪へ
(3) 看護婦さんは、私の頭を優しく撫で、キスをしてくださいました。それまでに優しくされたことがありませんでした。
-1 孤児たちの状況
-2 日本での生活
-3 悲しい出来事
(4) 惜別
(5) 感謝

1F



4 ユダヤ人難民
(1) ナチスに追われ命がけで逃げてきた ヨーロッパには安住できる所がどこにもない
(2) ツルガの町が天国に見えた 私たちは、何百年経とうと決して敦賀を忘れない
(3) 手に入れた自由と平和
(4) 「人道の港」市民の証言
(5) 奇跡の時計
(6) 命のビザ
5 杉原千畝コーナー
(1) 苦慮、煩悶の挙句、私はついには人道、博愛精神第一という結論を得た
杉原千畝の略歴
杉原千畝の決断
書き続けた命のビザ
外務省に残る発給記録
敦賀に上陸した難民の数
(2) 覚悟の決断
6 交流コーナー
(1) 「人道の港敦賀」の交流
(2) 来館者メッセージボード

3. 展示構成の考え方

(2) 展示構成上の課題

① 共通事項 (主にスペース)

- 主な展示室の2階へは階段利用が主となるため、**車いす利用者の見学に不便**を生じる。
- **全体に手狭**で、各コーナーに団体が入りきらない。展示解説を十分に行うことができない。
- **シアター**(杉原千畝コーナー)を団体で見ようとする**と半数は立ち見**となる。
- 構造上、最後まで見学した後、同じ動線を通して引き返さなくてはならない。流れが分断される。

② 個々の事項

- 欧亜国際列車は**階段で解説**。じっくりと見にくい。
- ポーランド孤児、ユダヤ人難民ともに、時代背景がやや説明不足。
- 動線上、**ユダヤ人難民の次に杉原千畝が解説**される。時系列的には逆。
- 2階で展示展開が途切れるため、**交流コーナーへのつながりが希薄**。気づかない人もいるのでは。

3. 展示構成の考え方

(2) 展示構成上の課題

③ 展示を構成するためのバックヤード

- 収納スペース等が限界に達しているため、資料等の寄贈の申し出があっても受け入れられないことがある。
- 展示室が小さく、開館以後に寄贈頂いた資料を活かした展示更新が十分に行えていない。
- 現体制は学芸員が不在。
- 資料や情報の収集・保存・調査・研究といった、ムゼウムの活動の基盤となる事業のためには専門的知見を持った技術職が必要。
- 現体制では、専門的知見を通じた活動や展示更新が行えない状況。

3. 展示構成の考え方

(3) 基本的な考え方

- 誰でも等しく利用できるようユニバーサルデザインの考え方を導入(バリアフリー・多言語等)
- 展示の観覧は基本的に有料とする(減免措置は今後検討)。
- 但し、ついで利用等、関心の薄い見学者へも概略が理解できるように、無料で観覧できる展示スペースも設ける。
- 各コーナーは、団体一組が余裕を持って見学や展示解説を受けられるようにする。
- スムーズな動線でストーリーに連続性を持たせる。
- 時系列で解りやすく伝える。
- 基本的に1室1コーナーで解りやすくテンポ良く伝える。
- 空間を象徴するような大型資料調達の見込みが難しいので、テーマを象徴するモノ・コトによる演出が必要。

3. 展示構成の考え方

(4) 新たな構成の概念(案)

当時から、現在、未来へのつながりを一連の流れで示す

- 見やすく解りやすい展示や配置とする。
- 命と平和のメッセージが解りやすく伝わるようにする。

敦賀で起きたことを知る

- 敦賀で何が起きたのか。ポーランド孤児とユダヤ人難民の出来事について、その概要を知る。

これからも大切に想う

- 敦賀を通過した人や、子孫らとの交流を通し、命や平和のメッセージを大切に想ってもらう。未来に伝える。

何故、敦賀に来たのか

- 戦前の敦賀が、ヨーロッパとの交通の拠点として、国内有数の国際港であった背景をより詳しく理解する。

何が起きていたのか

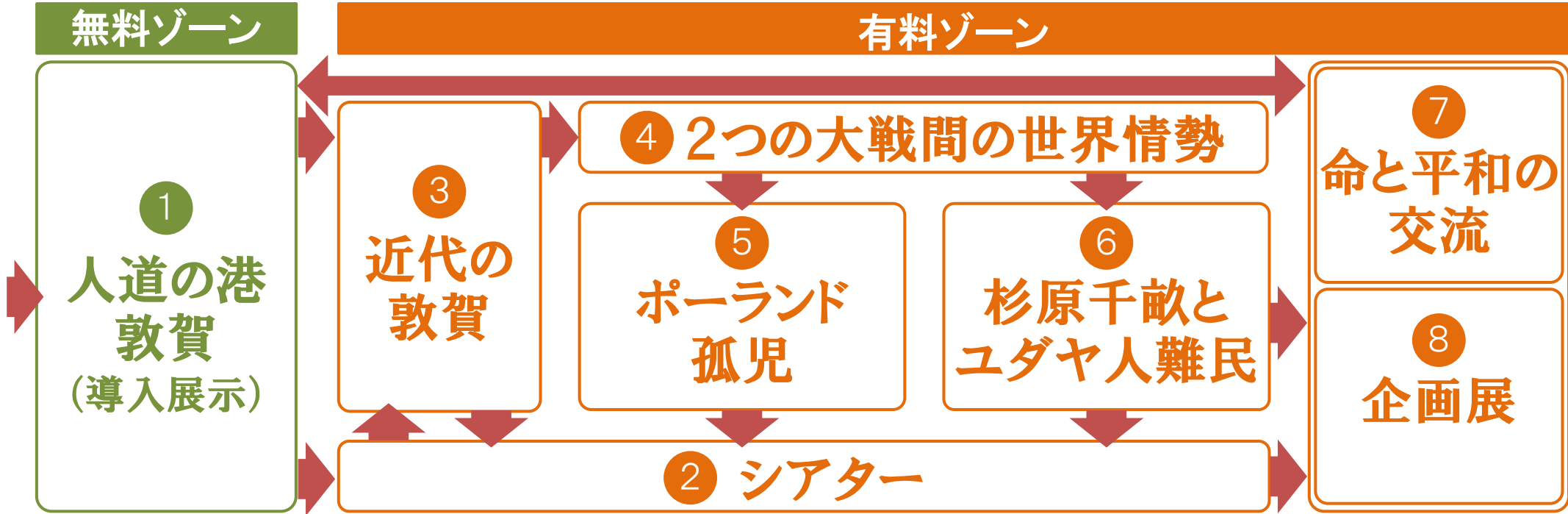
- 大量の難民が発生した背景に、二つの世界大戦の間の不安定な国際情勢が背景にあったことを詳しく知る。

それからどうなったのか

- 敦賀へ来港した後、孤児やユダヤ人たちは、その後に国内外でどのような軌跡を辿ったのかをより詳しく知る。

3. 展示構成の考え方

(5) 新たな展示構成(案)



- 導入部で、敦賀で起きた二つの出来事が概観できるようにする。
- 主導線とシアターは分け、どちらから見ても理解できるようにする。
- 物語の背景となる敦賀の重要性や時代背景を丁寧に伝える。

- 杉原千畝とユダヤ人難民は時系列で解説する。
- 当事者をはじめとする関係者との交流を丁寧に伝え、命と平和のメッセージを未来に伝える。

4. 展示構成

① 人道の港・敦賀

①伝達内容

- 初めて敦賀を訪れた観光客等、敦賀で起きた2つの出来事を知らない人たちに向けて、その概要を知ってもらう。
- 近代日本の玄関口は敦賀だったこと、日本が手をさしのべてポーランド孤児を救ったこと、命のビザを手に、自由を求めてユダヤ人が逃れてきたこと、敦賀町(当時)が暖かく迎え入れたこと等を、映像コンテンツや環境演出でテンポ良く展開していく。

②主な資料・情報

- 常設展示の情報を抜粋して、短時間で平易に伝える。
- 既存の映像コンテンツを編集する等して活用する。

③検討事項

- 展示観覧は有料とするため、このコーナーは無料で利用できるようにする。

4. 展示構成

② シアター

① 伝達内容

- このコーナー以降の観覧は有料とする。
- シアター機能は拡充し、**団体＋α**が余裕を持って鑑賞できるようにする。
- コンテンツは**テーマごとに複数用意**して、見学者のニーズに応じて見られるようにする。
- **研修室にもシアター機能**を設け、複数の団体が同時にコンテンツを鑑賞できるようにする。



シアター参考例：龍谷ミュージアム



4. 展示構成

② シアター

② 主な資料・情報

- 現状は、「ヘブンと呼ばれ」「遙かな記憶」「繋がれた命」他、7本のコンテンツを放映。製作年代は2008～17年。
- 杉原千畝関係は、TV番組により度々取り上げられているため、それらを活用することは考えられる。

新たな資料・情報の連携先

既存コンテンツ制作の放送局(福井テレビ)、NHK等関連コンテンツ制作実績のある放送局、前項に掲出の関係者等

③ 検討事項

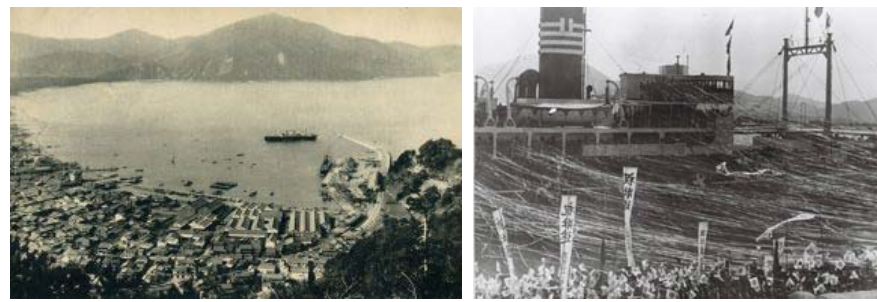
- 有料観覧とするため、見応えのあるコンテンツを新規製作する。
- 敦賀で起きた2つの事象やその軌跡を総括的に扱う新たなコンテンツの製作。
- 杉原千畝とユダヤ人難民を扱う新たなコンテンツの製作。
- ポーランド孤児を扱う新たなコンテンツの製作。
- 交流を通し、現在へつながり、未来へ伝える新たなコンテンツの製作。

4. 展示構成

③ 近代の敦賀

① 伝達内容

- 基本的に現在の内容を踏襲し、団体が見やすいように拡充する。
- 古代から交流・交易の拠点だった敦賀の**地理的要因を強調**。
- 近代の国策によって整備された鉄道・港湾設備と、**日本における当時の敦賀の重要性を特に強調**する。
- 欧亜国際連絡列車とシベリア鉄道で、**敦賀を通し東京から欧州がつながっていたことを強調**する。



4. 展示構成

③ 近代の敦賀

② 主な資料・情報

- 現状は、敦賀を通過した人々や港湾風景、連絡船の古写真、古絵図等。
- 新たな資料候補として、例えば港湾遺産、鉄道遺産、欧亜国際連絡列車関係の実物資料等が考えられる。

新たな資料・情報の連携先

敦賀市各部局・市立博物館、国会図書館・国立公文書館、県立図書館等

③ 検討事項

- 近代の敦賀を象徴するモノ・コトの選定
→例：立石岬灯台や北陸トンネル群の資料、欧亜国際連絡列車の資料等
- 敦賀が港湾都市として繁栄するベースとなった古代～近世の展示ボリュームをどの程度扱うか。
- 市立博物館、赤レンガ館（ジオラマ）との棲み分け。

4. 展示構成

④ 2つの大戦間の世界情勢

① 伝達内容

- ポーランド孤児とユダヤ人難民、
二つの事件が起きた背景を深く
理解するため、大戦間期の世界
情勢を詳しく理解する。
- 欧州の疲弊と復興、ロシア革命
やファシズムの台頭等による不
安定な時代を知る。

年	主な出来事
1914	第一次世界大戦(～18)
1917	ロシア革命
1919	ヴェルサイユ条約調印
1920	国際連盟成立
1920.22	ポーランド孤児上陸
1923	関東大震災
1929	世界恐慌(～32)
1930	ロンドン軍縮条約
1931	満州事変
1933	独:ヒトラー独裁、米:ニューディール政策
1937	日中戦争勃発
1939	第二次世界大戦勃発(～45)
1940	ユダヤ人難民上陸(～41)
1941	太平洋戦争(～45)

4. 展示構成

④ 2つの大戦間の世界情勢

② 主な資料・情報

- 現状は、ポーランド孤児とユダヤ人難民に付随する内容。
- 敦賀市では関連資料を所有していない。
- 資料候補は基本的に当時の世相を反映する写真・絵図等の版權類が中心か。

③ 検討事項

- 当時の世界情勢を象徴するモノ・コトの選定
→例：ロシア革命、世界恐慌、ナチスの台頭等、当時の写真
- 大戦間期の情勢は、一連の流れを説明した方が解りやすい。
- 従来通り、ポーランド孤児、ユダヤ人難民ごとに背景を紹介するのであれば本コーナーは不要。

新たな資料・情報の連携先

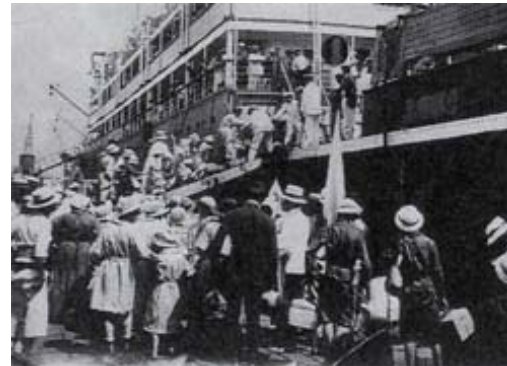
近代史を扱う各出版社、研究者(監修者)、国会図書館・国立公文書館等

4. 展示構成

⑤ ポーランド孤児

① 伝達内容

- 基本的に現在の内容を踏襲し、団体が見やすいように拡充する。
- 世界から見捨てられようとしていた孤児を、日本赤十字社が自ら手をさしのべた事を強調する。
- 敦賀から移動した孤児たちが、国内でどの様に過ごしていたのかを知る。
- 国外へ脱出した孤児たちが、その後どのような経緯を辿ったのかを知る。



4. 展示構成

⑤ ポーランド孤児

② 主な資料・情報

- 現状は、主に日本赤十字社や個人が提供した写真や事務報告等のレプリカで構成。
- 新たな資料候補として、団体が所蔵する写真や新聞記事。個人が所有する孤児の物品や書籍等。(いずれも今後要交渉)。

新たな資料・情報の連携先

日本赤十字社、孤児たち滞在了施設、ジャーナリスト、ポーランド大使館等

③ 検討事項

- ポーランド孤児を象徴するモノ・コトの選定
→例：赤十字章、市民が差し入れた菓子・果物等
- 新資料・情報の収集が特に難しいと推測される。新展開は団体や個人への照会と交渉次第か。
- 一連の事象を早わかりできる短編のコンテンツ制作も視野。

4. 展示構成

⑥ 杉原千畝とユダヤ人難民

① 伝達内容

- 現在、分かれている千畝と難民のコーナーは時系列で扱いあわせて紹介。
- 世界中が見捨てようとしていたユダヤ人難民を、ナチスの干渉に屈せず、国として弱者を救おうとした事を強調する。
- 樋口季一郎をはじめ、多くの人々が救おうとしたことも紹介。
- 敦賀から移動した後、難民たちがどんな経過を辿ったのかをより詳しく紹介。



4. 展示構成

⑥ 杉原千畝とユダヤ人難民

② 主な資料・情報

- 現状、ユダヤ人難民は、時計やビザの複製、写真、市民の証言で構成。
- 杉原千畝は、シアターコンテンツやビザリストの複製等で構成。
- 未展示資料に、パスポートや手記等の書類が複数存在。

新たな資料・情報の連携先

難民の家族や子孫、神戸市・神戸市文書館、鎌倉市(千畝の没地)、ホロコースト記念館(福山市)、関係国の大使館、海外の関連ミュージアム等

③ 検討事項

- 杉原千畝・ユダヤ人難民を象徴するモノ・コトの選定
→例: リトアニア領事館の室内再現等(但し、八百津町でも再現)
- ストーリー的には同系列で扱うが、展示の中心となる内容のため、2コーナーとして扱うか(シアターは別室を設ける)。
- 市民の証言は貴重なデータとなるため、顕在化が必要か。
- 連携先候補への照会、未展示資料活用は積極的に行う。

4. 展示構成

⑦ 命と平和の交流

① 伝達内容

- 敦賀を經由し、生き延びた人たちが、昔も今も感謝していることを知り、そしてこれからも命や平和のメッセージを大切に想ってもらう。その想いを未来に伝える。
- ポーランドやイスラエル等、国や組織からの表彰や感謝を紹介。
- 本人や家族、子孫等からの感謝の気持ちを紹介。
- 敦賀から情報を発信し、交流を続け、その証を紹介する。
- 関連自治体や団体と連携してその成果を紹介する。



4. 展示構成

⑦ 命と平和の交流

② 主な資料・情報

- 勲章や記念切手、レリーフ、書籍等、比較的資料は多い。また、未公開の家族写真等も存在。
- 開館後に贈られたパスポートや物品等も存在するが、これらはユダヤ人難民コーナーで展示か。

③ 検討事項

- 家族や遺族の方々の交流を通すことによって、今後も資料や情報が増えていくことを念頭に置く。
- 交流の手法等について要検討。
- 関連自治体と情報交換し、その成果を、例えば、共同開催の巡回展にする等、連携のしくみを確立する。

新たな資料・情報の連携先

難民の家族や子孫、八百津町・名古屋市等の関連自治体、関係国の大使館等

4. 展示構成

⑧ 企画展

① 伝達内容

- 特定のテーマを掘り下げ、一定期間展示する。
- ポーランド孤児やユダヤ人難民を中心に、様々なテーマの企画展を開催して話題性を高める。
- 「命と平和」を広義に捉え、例えば敦賀空襲や、最近の不安定な世界情勢等、時事ネタによる展開も視野に入れて話題性を高める。

② 主な資料・情報

- 主にムゼウムや敦賀市が所蔵する資料を用いる。
- 新たに入手したり、未公開の資料や情報は、積極的に公開する。
- テーマに応じて、関連諸機関の資料や情報を借用し展示する。

③ 検討事項

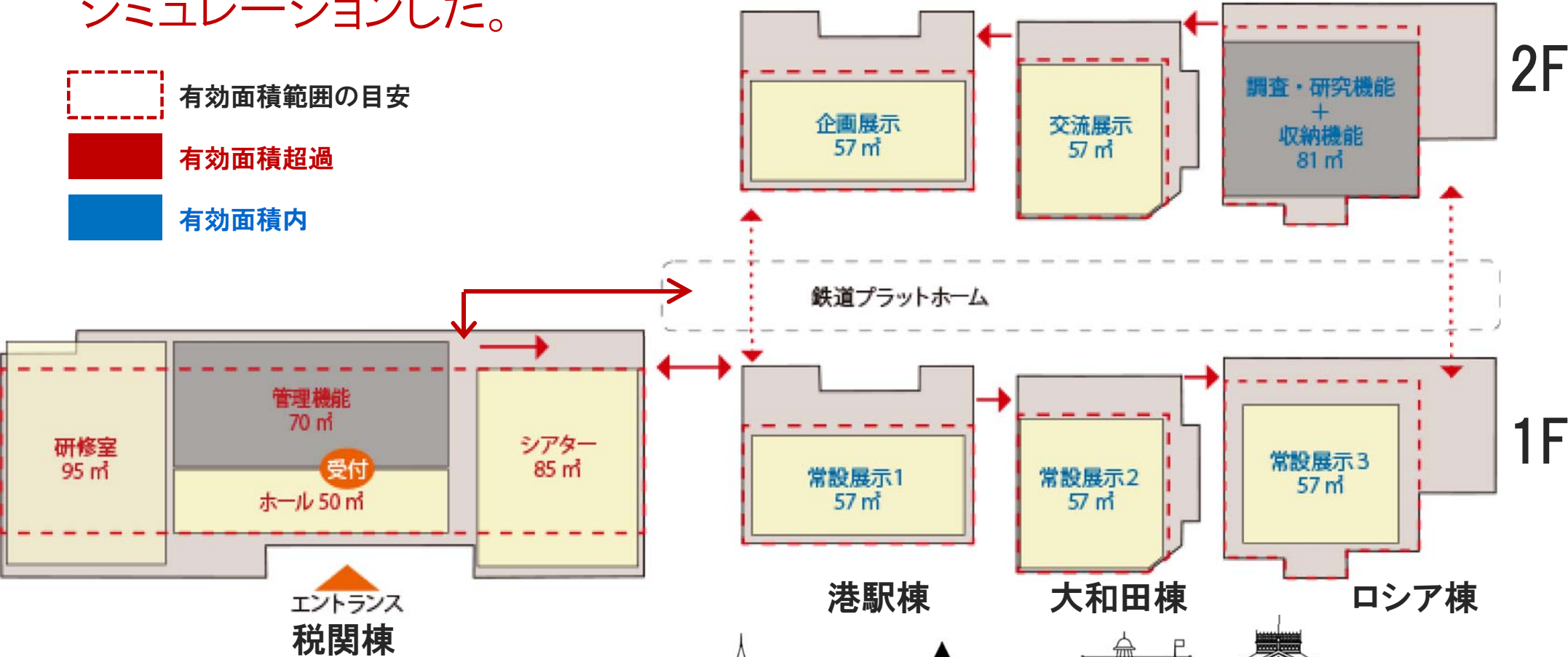
- 八百津町や名古屋市等、関連する自治体や団体等と共同で巡回展が開催できる関係を構築する。

5. 機能構成(案)

(A案) 税関棟をエントランスに、主要展示を3棟へ集約

- 第3回委員会「機能構成(案1)~(案3')」を集約し、シミュレーションした。

有効面積範囲の目安
 有効面積超過
 有効面積内



5. 機能構成(案)

(A案) 税関棟をエントランスに、主要展示を3棟へ集約

① メリット

- 研修室とシアターを入口近くに設け、動線がスムーズ。
- 展示機能と調査研究機能を隣接させることにより、展示更新しやすい。

② デメリット

- 管理機能と調査研究機能が離れ、運営しにくい可能性がある。
- 税関棟に管理機能を収めるためには、やや手狭。
- 展示動線上の収蔵庫はセキュリティ上やや難あり。

③ 面積の仮設定

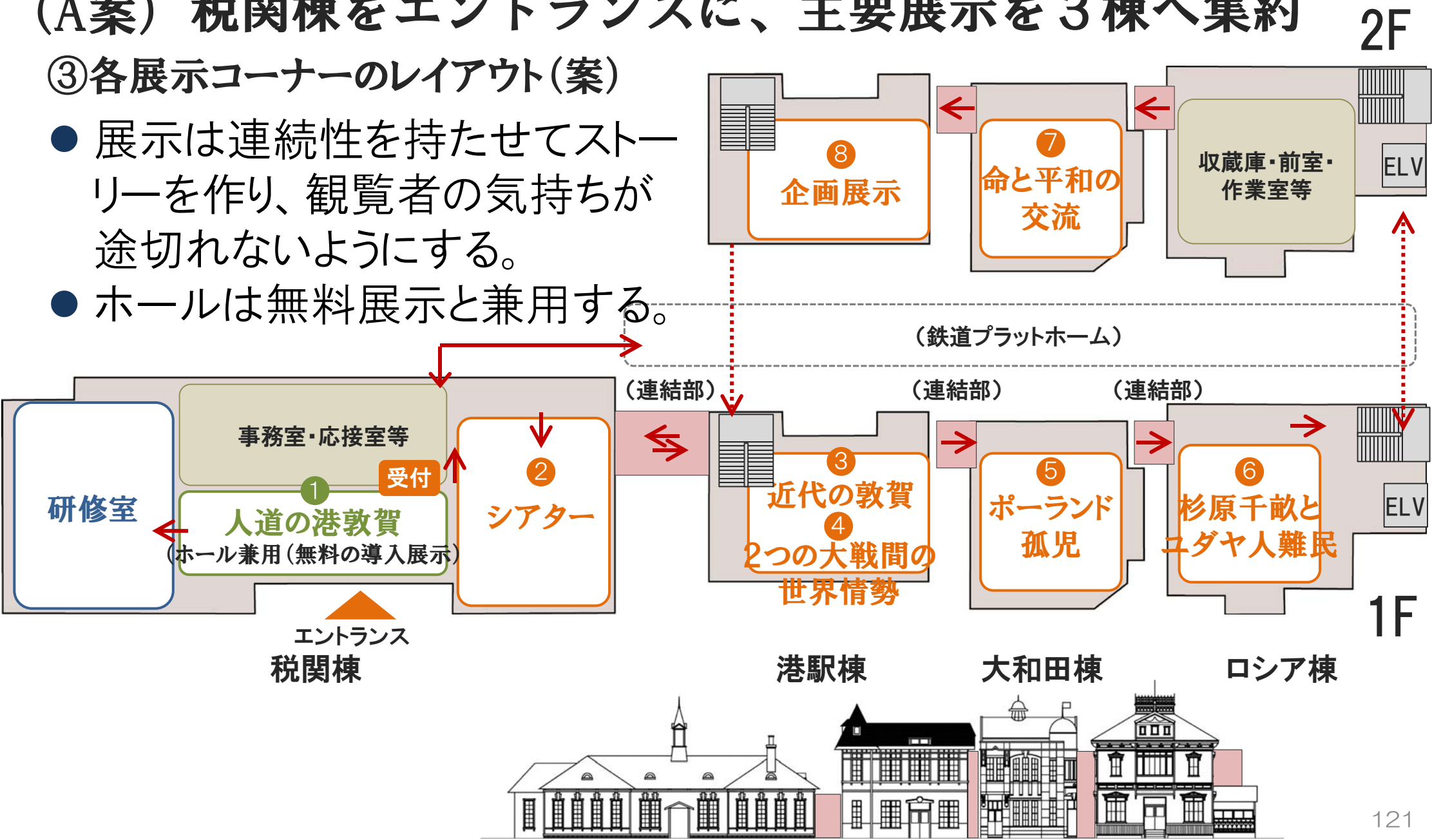
税関棟	 <p>建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡ 各機能の面積:合計300㎡ ※有効面積の不足は約6%程度、レイアウトの工夫で実現は可能。</p>
港駅棟	 <p>建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡ (1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/企画展示57㎡</p>
大和田棟	 <p>建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡ (1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:114㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/交流展示57㎡</p>
ロシア棟	 <p>建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡ (1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:138㎡ 1F/常設展示57㎡ 2F/調査・研究81㎡</p>

5. 機能構成(案)

(A案) 税関棟をエントランスに、主要展示を3棟へ集約

③各展示コーナーのレイアウト(案)

- 展示は連続性を持たせてストーリーを作り、観覧者の気持ちが続けられないようにする。
- ホールは無料展示と兼用する。

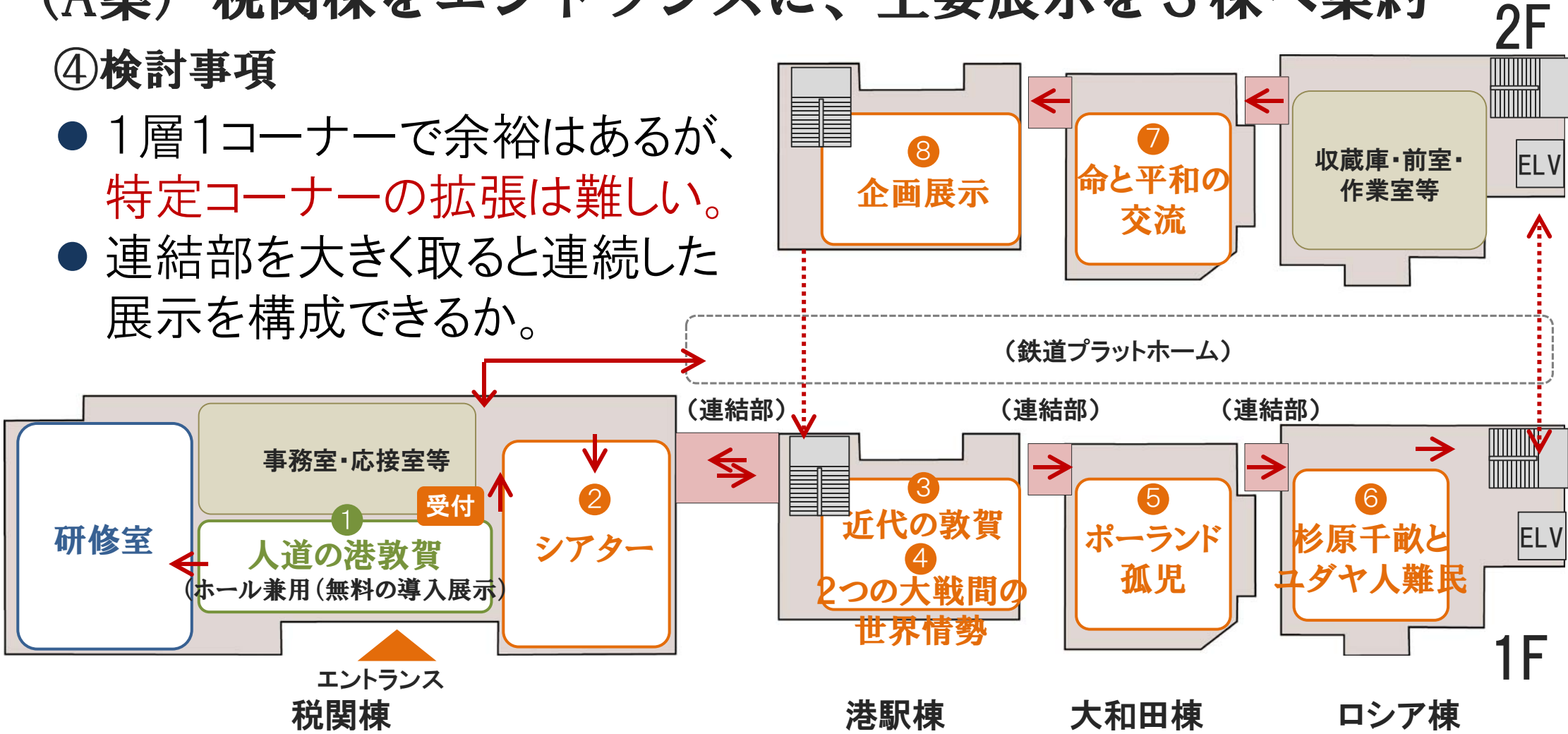


5. 機能構成(案)

(A案) 税関棟をエントランスに、主要展示を3棟へ集約

④検討事項

- 1層1コーナーで余裕はあるが、**特定コーナーの拡張は難しい。**
- 連結部を大きく取ると連続した展示を構成できるか。



- 階段やELV、トイレ等は連結部へ設置で有効面積を増やせる。

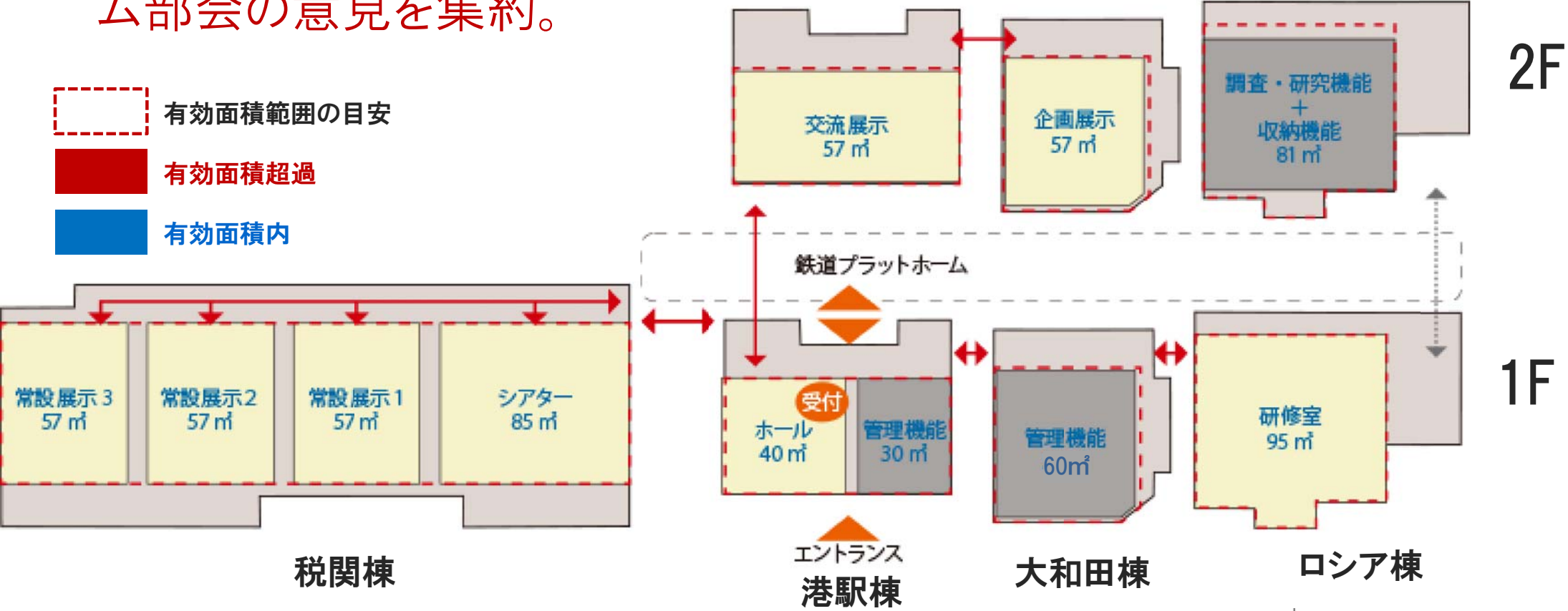
- 連結部の大きさ、構造や意匠に工夫が必要。

5. 機能構成(案)

(B案) 港駅棟をエントランスに、税関棟へ主要展示を集約

- 第3回委員会「機能構成(案4)～(案6)を集約し、さらに第4回ムゼウム部会の意見を集約。

有効面積範囲の目安
 有効面積超過
 有効面積内



5. 機能構成(案)

(B案)

① メリット

- 港駅棟は南北2方向に入口を設けられ、県の計画する鉄道施設との連携が良くなり、周辺施設との利便性も向上する。
- 交流・企画展示が調査研究機能に近く、展示更新が容易。
- セキュリティや夜間の貸室利用が行いやすく、運用しやすい。拡張性が見込める。

② デメリット

- 常設展示と企画・交流展示が離れるため、空間演出や連続性に工夫が必要。

③ 面積の仮設定

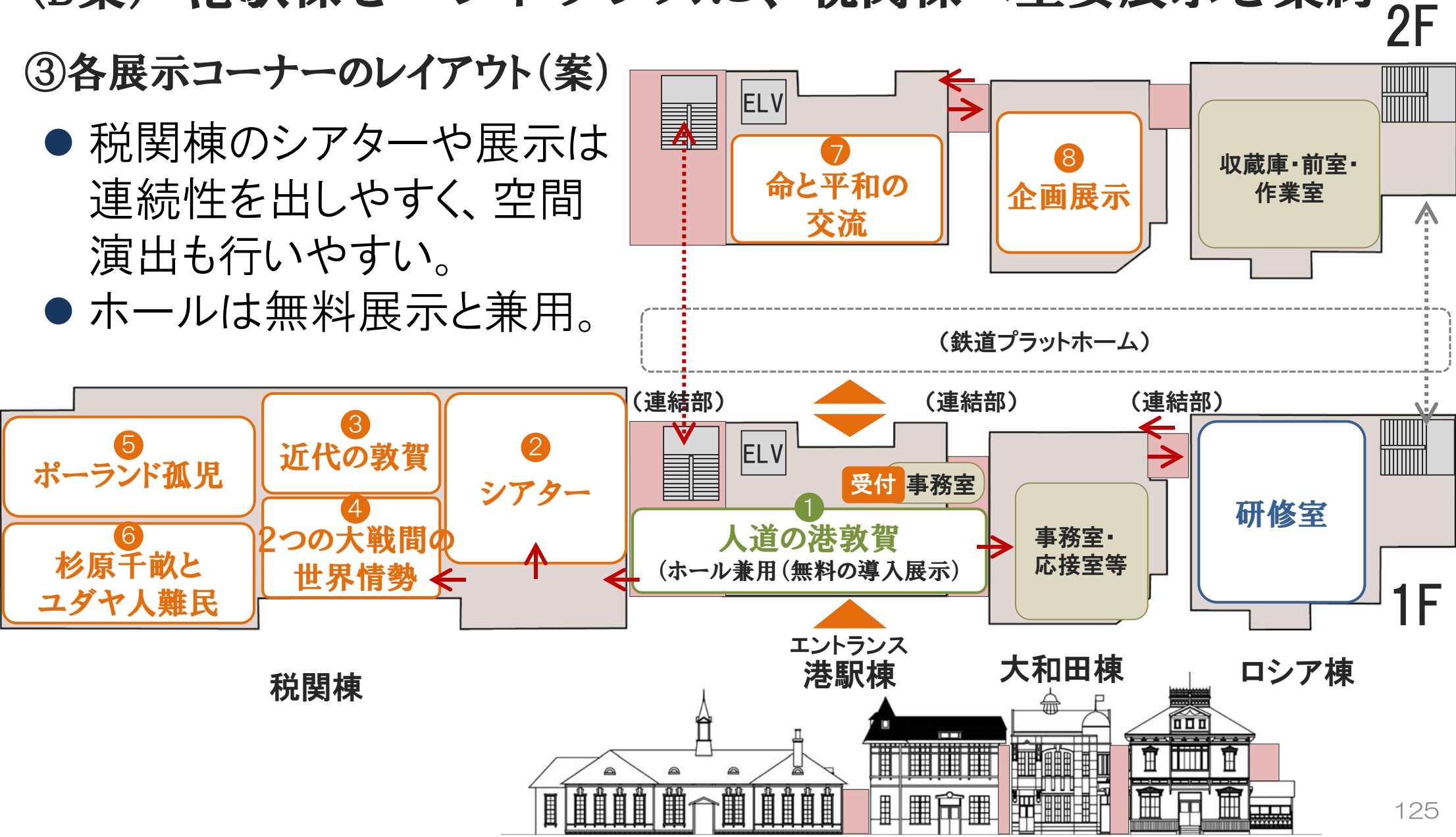
税関棟	○ 建物面積合計:404㎡ 有効面積:283㎡ 各機能の面積:合計256㎡
港駅棟	○ 建物面積合計:208㎡(1F/104㎡ 2F/104㎡) 有効面積合計:146㎡(1F・2F 各73㎡) 各機能の面積合計:127㎡ 1F/管理機能30㎡ ホール40㎡ 2F/交流展示57㎡
大和田棟	○ 建物面積合計:180㎡(1F/90㎡ 2F/90㎡) 有効面積合計:126㎡(1F・2F 各63㎡) 各機能の面積:117㎡ 1F/管理機能60㎡ 2F/企画展示57㎡
ロシア棟	○ 建物面積合計:270㎡(1F/135㎡ 2F/135㎡) 有効面積合計:189㎡(1F・2F 各95㎡) 各機能の面積:176㎡ 1F/研修室95㎡ 2F/調査・研究81㎡

5. 機能構成(案)

(B案) 港駅棟をエントランスに、税関棟へ主要展示を集約

③各展示コーナーのレイアウト(案)

- 税関棟のシアターや展示は連続性を出しやすく、空間演出も行いやすい。
- ホールは無料展示と兼用。

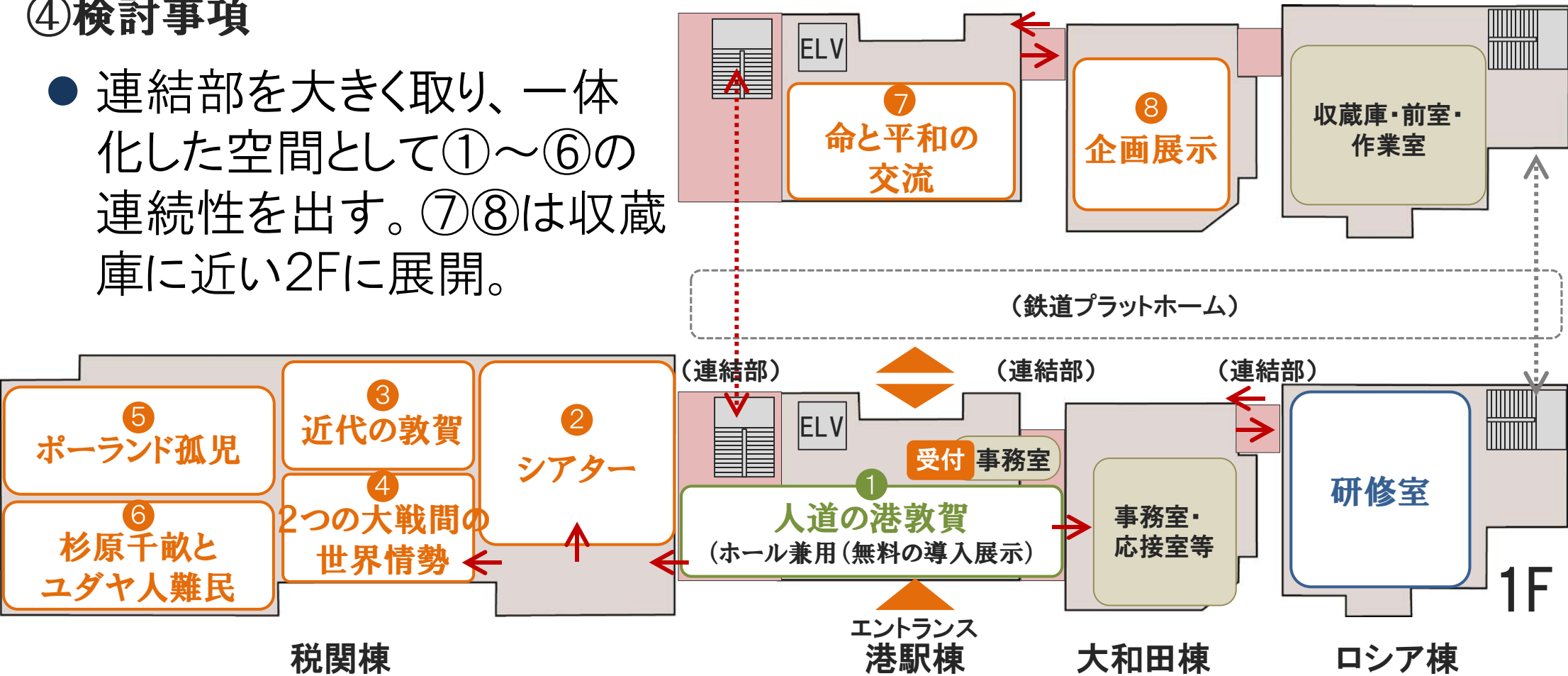


5. 機能構成(案)

(B案) 港駅棟をエントランスに、税関棟へ主要展示を集約

④検討事項

- 連結部を大きく取り、一体化した空間として①～⑥の連続性を出す。⑦⑧は収蔵庫に近い2Fに展開。



- 階段やELV、トイレ等は連結部へ設置で有効面積を増やせる。

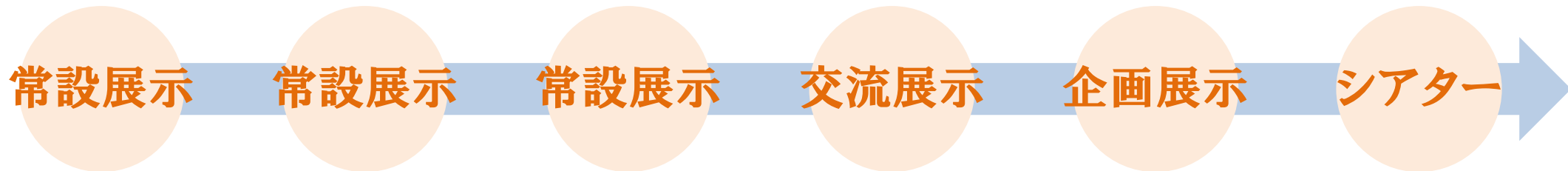
- 収蔵庫を利用者動線から外せるので資料の安全性が高い。

6. 利用パターンの検討

(1) 属性ごとの想定見学パターン

① 基本動線

- 全ての展示をじっくりと読み解く(想定見学時間約1時間～)。



② 団体動線1

- 時間の限られるツアー団体(想定見学時間30分以内)。

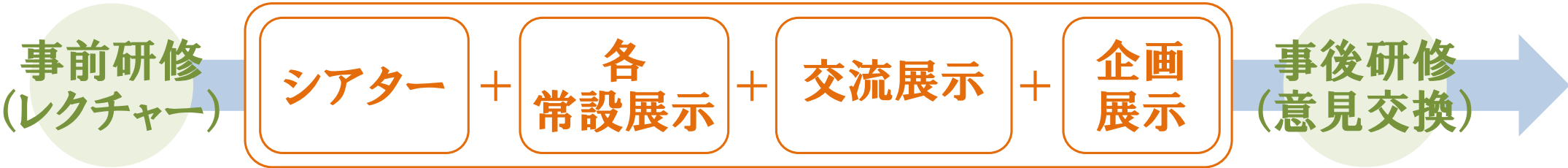


6. 利用パターンの検討

(1) 属性ごとの想定見学パターン

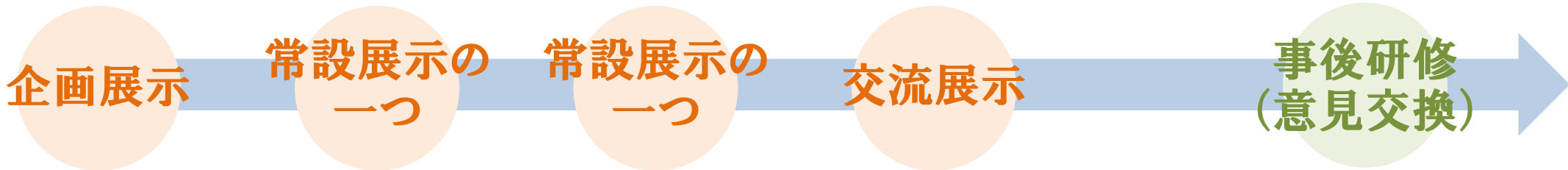
③ 団体動線2

- 教育旅行向けに、展示見学の前後に研修の時間を設ける。
(想定見学時間約2時間～)



④ 解説動線 (一例)

- 特定のテーマを解説員が掘り下げて説明 (想定見学時間1時間～)。
- 見学者のニーズや時間に応じて、様々なバリエーションを持たせる。



6. 利用パターンの検討

(2) 周辺地区全体での団体の受入

- 修学旅行等の大規模団体は、周辺地区全体で受け入れる。
- きらめきみなと館等、既存資源を最大限に活用する。



6. 利用パターンの検討

(3) 団体の見学パターン(案)

30分	1時間	1時間半	2時間
-----	-----	------	-----



7. ムゼウムから拡がる回遊性

(1) ユダヤ人難民の移動ルート

- 敦賀港の棧橋に降り立ったユダヤ人難民たちは、徒歩で敦賀駅まで移動した。
- その移動ルートは、市民の証言等から概ね想定できる。
- 敦賀市街は空襲によって灰燼に帰した後、区画整理を行っているが、主要道路は現在とあまり変わらないものと推測できる。



7. ムゼウムから拡がる回遊性

(2) 移動ルートで回遊性を高める

- ユダヤ人難民らは、現在のきらめきみなと館前から氣比神宮に向かい、国道8号線を経て白銀交差点から敦賀駅に向かったと考えられる。
- 例えば、「人道の道」等のストーリー付けを行い、回遊性を高められるように、ムゼウムから敦賀駅まで、モニュメント等でその道筋が解るようにする。
- これらの道筋は中心市街地にもあたることから、道筋の商店街等とも連携を図っていく。



8. 鉄道遺産の機能計画

1. 金ヶ崎周辺エリアに残される鉄道遺産等

水平ヤード(操車場)
(休止中)

鉄道栈橋だった区域
(乗降船場・港駅等)
(滅失)

旧敦賀港線
(滅失)

戦前の海岸線

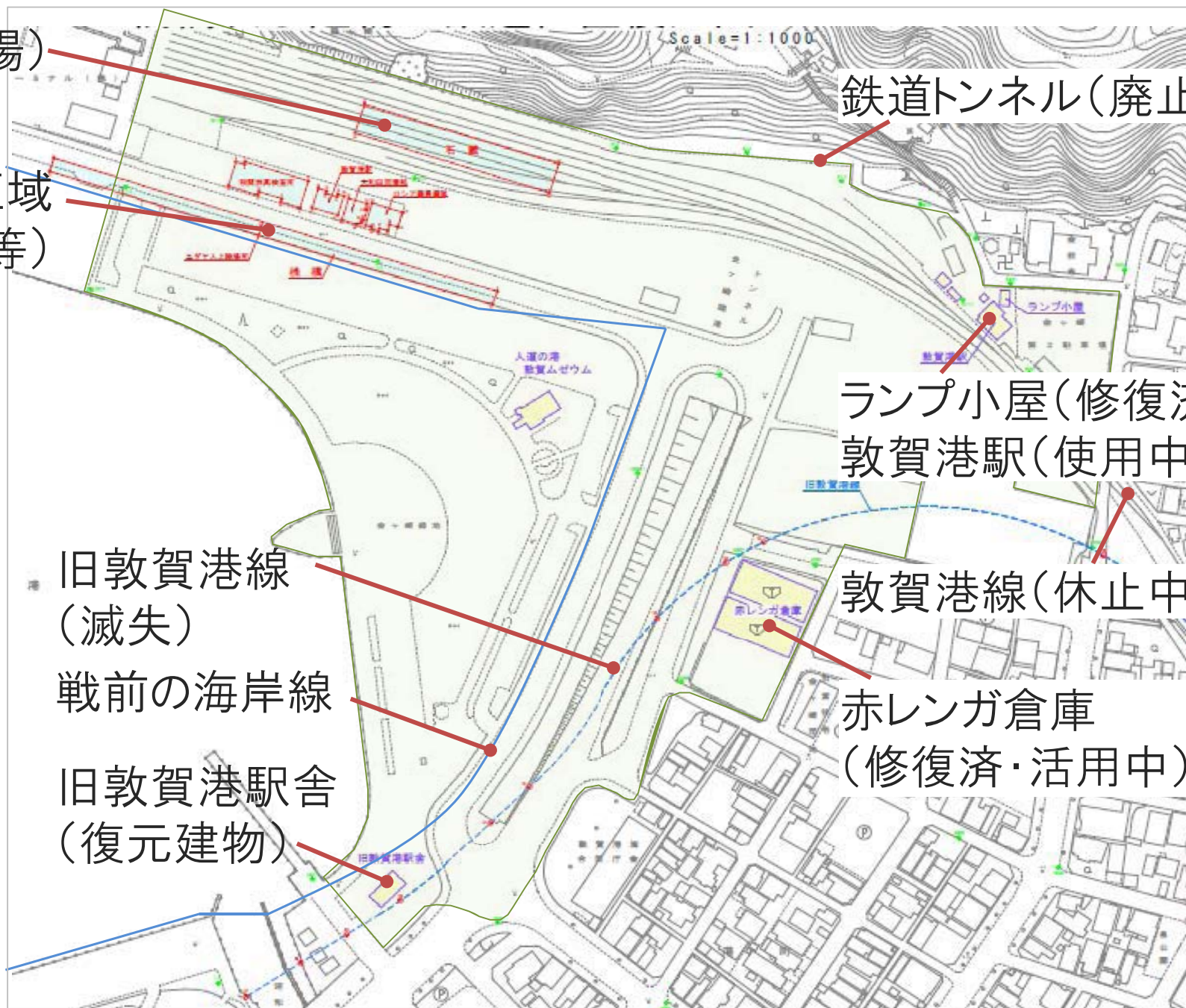
旧敦賀港駅舎
(復元建物)

鉄道トンネル(廃止)

ランプ小屋(修復済)
敦賀港駅(使用中)

敦賀港線(休止中)

赤レンガ倉庫
(修復済・活用中)



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(1) ランプ小屋

①概要

- 列車の灯火に使用されるカンテラの燃料を保管する倉庫として、明治15(1882)年頃、北陸本線の金ヶ崎開通と同時期に建てられたと推測される。
- その後、光源が電灯に変わりその存在価値が失われたため、国内で現存する同類の移設は少ない。
- 敦賀市内の鉄道遺産も、その多くは失われていることから、良好な状態で残されている本施設は貴重な存在。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(2) 赤レンガ倉庫

①概要

- 外国人技師の設計により明治38(1905)年に建築された県内有数のレンガ建造物。登録有形文化財。
- 観光施設として「ジオラマ館」「レストラン館」「オープンガーデン」を整備し、平成27(2015)年10月に開館。
- 戦前の敦賀の港と鉄道をジオラマ化した「ノスタルジオラマ」は、鉄道ジオラマとして国内最大級の規模を誇る。
- 年間8万人を集客目標としていたが、開館9ヶ月で10万人を突破した。



	27(2015)年	28(2016)年
利用者数	69,400人※	212,400人

※約5ヶ月間

2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(2) 赤レンガ倉庫

②活用の考え方

- 金ヶ崎周辺エリアを代表する観光施設として、引き続き「ジオラマ館」「レストラン館」「オープンガーデン」として事業を継続する。



③今後の検討課題

- 施設の性格上、新鮮味がなくなると入込客数は減少していくため、ミライエやつるが「鉄道と港」フェスティバルをはじめとするイベント等と連携し、常に新鮮味を提供していく。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(3) 旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

①概要

- 平成11(1999)年、つるが・きらめき・みなと博21(平成11年)の開催時に、欧亜国際連絡列車が走っていた頃の駅舎を復元した。
- 鉄道に関する実物資料や、鉄道模型等を展示し、敦賀の鉄道と港の歴史を紹介している。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(3) 旧敦賀港駅舎(敦賀鉄道資料館)

②活用の考え方

- 鉄道資料館として、その役割を継続していく。
- 資料の更なる充実や、不足している情報の追加等を今後検討する。



歴史展示



収蔵展示 出典：リニア鉄道館

③今後の検討課題

- 復元4棟では敦賀港駅舎も再現するため、将来的にはエリア内に同形状の建物が2棟存在することになる。
- 中長期的には機能の役割分担や、施設の存在について検討していくことが必要。



蔵出しパネル展



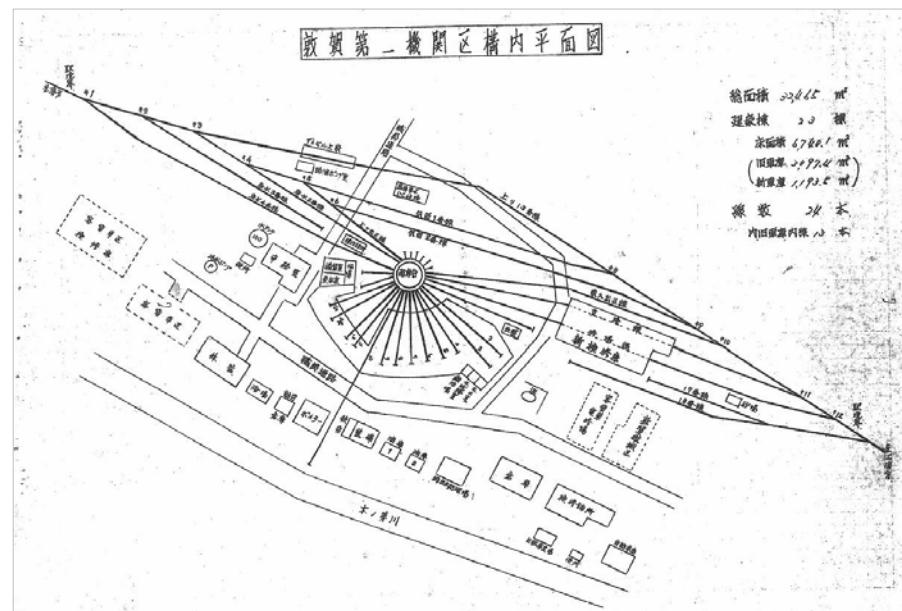
魅惑の鉄道切符展 出典：新津鉄道資料館

2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(4) 旧敦賀駅転車台

①概要

- 敦賀駅の転車台は早くから整備されたと思われる。現存する転車台は昭和27(1952)年に製造され、平成15(2003)年頃まで使われた。
- 元あった位置は北陸新幹線の新駅建設地にあたるため、JR西日本から福井県へ譲渡され、解体保管されている。
- 金ヶ崎周辺エリア内で活用を検討していく予定。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(5) トワイライトエクスプレス

① 概要

- 平成27年に運行を終了したトワイライトエクスプレスの牽引車は、敦賀地域鉄道部の所属車両で、敦賀に縁が深い。
- 車両本体の譲渡は法規制により困難であるため、JR西日本と協議の結果、部品等の譲渡となった。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(5) トワイライトエクスプレス

② 活用の考え方

- トワイライトエクスプレスは、鉄道ファンをはじめ多くの人々に人気があることから、これを有効活用して話題を高める。
- 鉄道資料館での展示や、カフェやレストランへの活用等を今後検討していく。

③ 今後の検討課題

- 具体的にパーツ、部品の活用場所や方法を検討する。
- 他にも、譲渡の可能性のある車両本体やパーツに関しては情報を収集していく。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(6) 北陸本線貨物支線(敦賀港線)

①概要

- 昭和62(1987)年、国鉄民営化に伴いJR貨物が継承。
- その後は、観光イベント等により臨時列車を運行していた。
- 平成21(2009)年に貨物列車の運行廃止、現在は休止中。
- 敦賀への鉄道敷設は、最初期の明治2(1872)年に国が決定した。
- 北陸本線の最初期、明治15(1882)年に開通した。

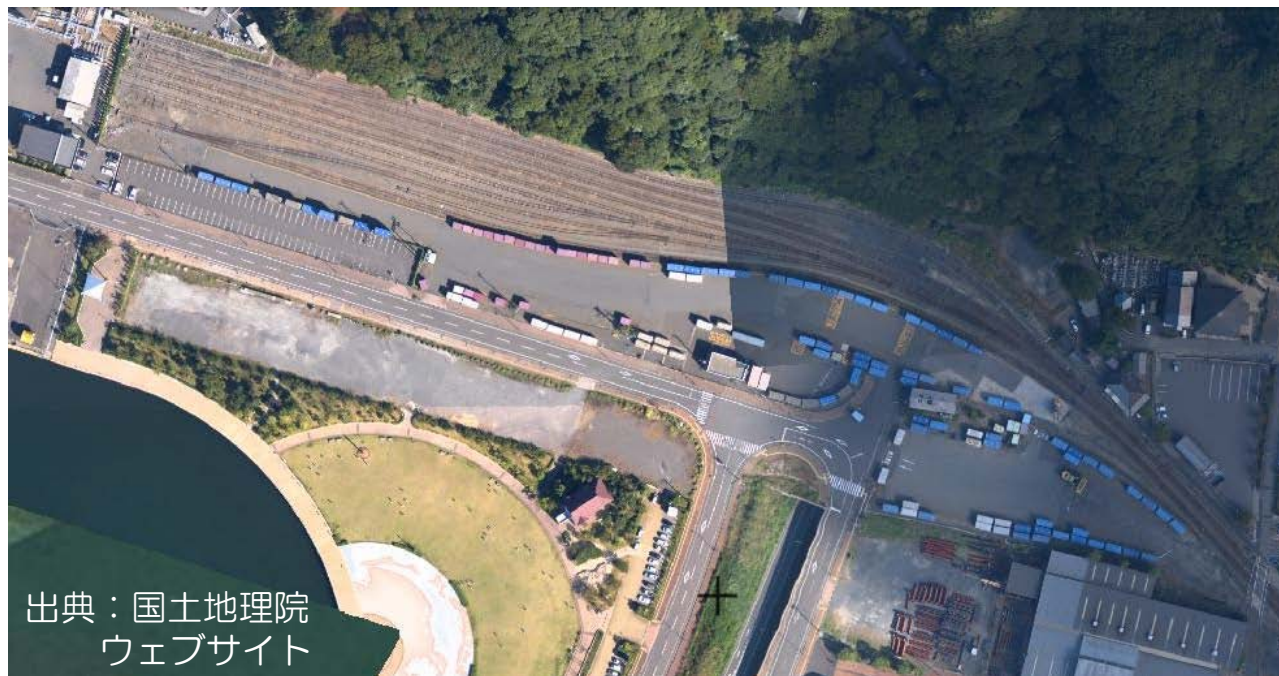


2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(7) ヤード(操車場)

①概要

- 明治15(1882)年に長浜～金ヶ崎(現在の敦賀港駅)間の鉄道が開通。
- 主に貨物線として利用され、戦前には欧亜国際連絡列車も発着していた。
- 敷地は現在、敦賀港オフルールステーションとして利用されている。



2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(8) 敦賀港駅舎

①概要

- 北陸本線として最初に長浜～金ヶ崎間に鉄道が敷かれた際に、金ヶ崎駅として開業。
- 大正8(1919)年に敦賀港駅に改称された。
- 昭和62(1987)年、国鉄民営化に伴い敦賀港線とともにJR貨物が継承。
- 現在も事務所として利用されている。



出典：Wikipedia

2. 鉄道遺産等の概要・活用の考え方

(9) 廃トンネル

① 概要

- 敦賀セメントの専用線として、天筒山を抜け、敦賀工場とつながっていた。
- セメントは当駅から北陸や関西に向け貨車で発送していた。
- 現在は利用されておらず、侵入防止柵がめぐらされ立ち入り禁止となっている。



出典：国土地理院ウェブサイト
昭和38(1963)年1:50000図

3. 周辺の鉄道遺産・港湾遺産

(1) 各資源の概要

①眼鏡橋

- 初の北陸本線施設。市街地で明治前期に遡る唯一の鉄道遺産として高い価値。

②旧北陸本線トンネル群

- 当時最長だった柳ヶ瀬トンネルを含め長浜～敦賀間は明治17年(1884)年に全通。

③本町第3公園SL

- 昭和46(1971)年まで小浜線で活躍していたC58型蒸気機関車が設置されている。

④敦賀倉庫群

- 昭和前期の建築。RC造で、当時流行の国際様式の影響が見受けられる大型倉庫。

⑤立石岬灯台

- 明治14(1881)年に石造り灯台としては初めて日本人のみによる設計施工で建設。



3. 周辺の鉄道遺産・港湾遺産

(2) 活用の考え方

- 敦賀市内の遺産を巡るツアー等により、鉄道遺産の切り口から市内の回遊性を高められるようにする。
- 北陸線・小浜線沿線の市町と連携した広域イベントも視野に入れる。

(3) 今後の検討課題

- 各遺産の管理や運営のあり方。
- 市内外の鉄道遺産との具体的な連携方策や協議体の検討。



9. 管理運営計画

1. PPP (パブリックプライベートパートナーシップ)

(1) 整備方式の種類 (民間活力の導入)

		管理運営	
		行政	民間
整備	行政	公設公営 <ul style="list-style-type: none">● 従来の行政サービス	公設民営 <ul style="list-style-type: none">● 管理運営委託 (指定管理者制度を含む)● 施設貸与● DBO
	民間	民設公営 <ul style="list-style-type: none">● 施設受譲● 施設借用 (リース)	民設民営 <ul style="list-style-type: none">● PFI方式● 第3セクター方式● 定期借地権方式

2. 直営方式の概要

敦賀市の方針を運営に反映しやすい反面、柔軟な運営がしにくいことがある

概要	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">● 自治体が自ら管理運営を行う方式。● 運営や施設の維持管理の一部を民間に業務委託する場合もある。(清掃、警備等、施設の維持管理業務は民間委託する場合が多い)	<ul style="list-style-type: none">● 自治体の方針等を運営に直接反映しやすい。● 自治体内部の連携や、他の公共施設等との連携を図りやすい。● 事業の安定性、継続性を担保しやすい。	<ul style="list-style-type: none">● 人事や会計などの行政制度により、柔軟な運営がしにくい場合がある。● 収入・支出に対するコスト意識が働きにくい。● 市民ニーズや社会状況に応じて変化する事業内容に合った人材の確保が難しい。

3. 指定管理者方式の概要

敦賀市にノウハウが蓄積されにくい反面、柔軟で質の高いサービスが提供できる

概要	メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none">● 公の施設の維持管理・運営を自治体の指定する法人、その他の団体が一定期間実施する制度。● 単独事業者のほか、コンソーシアムが指定管理者となることも可能。● 公の施設の設置・管理について自治体の条例で定める必要がある。● 指定管理者の指定には、議会の議決が必要。● 指定管理期間は3～5年のケースが多い。	<ul style="list-style-type: none">● 民間事業者などの専門性やノウハウ、柔軟性を活かした事業展開、サービス向上を図ることができる。● 民間事業者等の経営ノウハウにより、事業の効率化が期待できる。● 集客の見込める施設においてはインセンティブを与えることで導入効果が期待できる。	<ul style="list-style-type: none">● 指定管理者の公募、選定手続き等、自治体側の負担が増える場合がある。● 運営を委任するため、事業のノウハウが自治体内に蓄積されにくい。● 指定管理者が交代した場合、事業の継続性・安定性が確保されない事がある。

4. その他の公設民営方式

(1) 施設貸与

- 施設を公共団体が建設した上で、民間に有償若しくは無償で貸与または譲渡し、その管理運営を委ねる方式。
- 管理運営にかかる費用は、基本的に民間が利用料収入の中から負担する。
- 行政財産の貸付範囲の適用が拡大され、空きスペース等を民間に目的外でも貸付けられるようになった。

(2) DBO

- Design Build Operate(設計・施工・運営)の略。
- 公的団体が資金調達し、設計、建設、維持管理、運営を一体的に民間事業者が発注する方式。
- 施設の所有権は公共団体が有する。

5. 民設民営方式

(1) PFI方式

- 民間に施設等の設計・施工・運営・資金調達を一体的に委ねる方式。事業方式ではBT0.B0T.B00の3方式が代表的。
- 事業類型別では、独立採算型、サービス購入型、混合型の3種類に分けられる。
- 事業化までに期間を要する。

(2) 第3セクター方式

- 公共と民間との共同出資により設立された経営事業体(3セク)に委ねる方式。責任が曖昧になり経営破綻する例も見られる。

(3) 定期借地権方式

- 土地活用の企画とセットで設計・建築・運営を委ねる。借地契約は更新ができない。

6. ムゼウムの管理運営方式

(1) 類似施設の状況

ミュージアムの民間委託は全国的にまだ少数

- 全国の博物館・博物館類似施設で、指定管理者制度を導入している施設は約3割。

区分	博物館		博物館類似施設		計	
公立の施設数	765	100%	3,528	100%	4293	100%
うち指定管理者導入施設数	183	23.9%	1,096	31.1%	1279	29.8%
地方公共団体	0	0.0%	16	0.5%	16	0.4%
一般社団法人・一般財団法人	128	16.7%	523	14.8%	651	15.2%
会社	41	5.4%	236	6.7%	277	6.5%
NPO	6	0.8%	87	2.5%	93	2.2%
その他	7	0.9%	192	5.4%	199	4.6%

文部科学省社会教育調査(平成27年度)より抜粋

6. ムゼウムの管理運営方式

(2) 運営方針

① 運営者の考え方

民間活力の参入を促し 質の高いサービスの提供を今後検討

- 展示、交流・サービス、教育普及事業を民間事業者に委託することにより、質の高いサービスが提供できる。
- 運営の継続性、安定性を担保するため、長期の指定管理等を検討。
- 敦賀市の意向を速やかに運営へ反映していけるしくみづくりの検討が必要。(評価委員会等)

6. ムゼウムの管理運営方式

(2) 運営方針

② 運営体制の考え方

持続的な事業活動や外部連携の実現を可能とする 十分なスタッフを配置

- 事業を継続的に展開するためには、組織にも安定性と継続性が求められる。
- 利用者のニーズに即応できるフットワークの良さ、関係諸機関との連携体制も確保した組織が求められる。

6. ムゼウムの管理運営方式

(3) 開館日・開館時間

市民や観光客が利用しやすい開館日数や 時間を検討

- 放課後の利用、長期休暇の利用等、子どもや家族等の市民、観光客が利用しやすい開館日数・時間を設定。
- 週休1日を基本とし、夏休み等は無休を検討。
- 利用状況に応じ、夕方や夜間利用を促すため、開館時間の延長も視野に入れる。

6. ムゼウムの管理運営方式

(4) 利用料金の考え方

**受益者負担の見地から利用料は徴収
但し、団体・高齢者利用等は減免も検討**

- 恒常的な財政負担と軽減し、拠点施設を安定的に運営していくため、適切な料金を設定する。
- 利用者が気軽に利用しやすいことへ配慮し、団体・高齢者利用等は減免措置も検討する。
- 利用料を設定し、コンテンツは利用料で利用できることを基本とする。
- 運営負担や維持負担の大きいコンテンツやプログラムは利用料にプラスし課金も検討する。

6. ムゼウムの管理運営方式

(5) 利用料金の設定

施設名	利用料	減免対象	備考	延床
敦賀市博物館	300円	団体250円、高校生以下無料		1452㎡
敦賀赤レンガ倉庫	400円	団体320円、子ども200/160円	3歳以下無料	1080㎡
若狭歴史博物館	300円	団体240円、子ども・高齢者無料	障がい者も減免	3218㎡
舞鶴引揚記念館	300円	団体200円、学生150円	市内学生無料	936㎡
舞鶴赤れんが博物館	300円	団体200円、学生150円 ※1	市内学生無料	842㎡
長浜城歴史博物館	400円	団体320円、小中200/160円		1836㎡
広島市平和記念資料館	200円	団体200円、高校生100円 ※2	中学生以下無料	

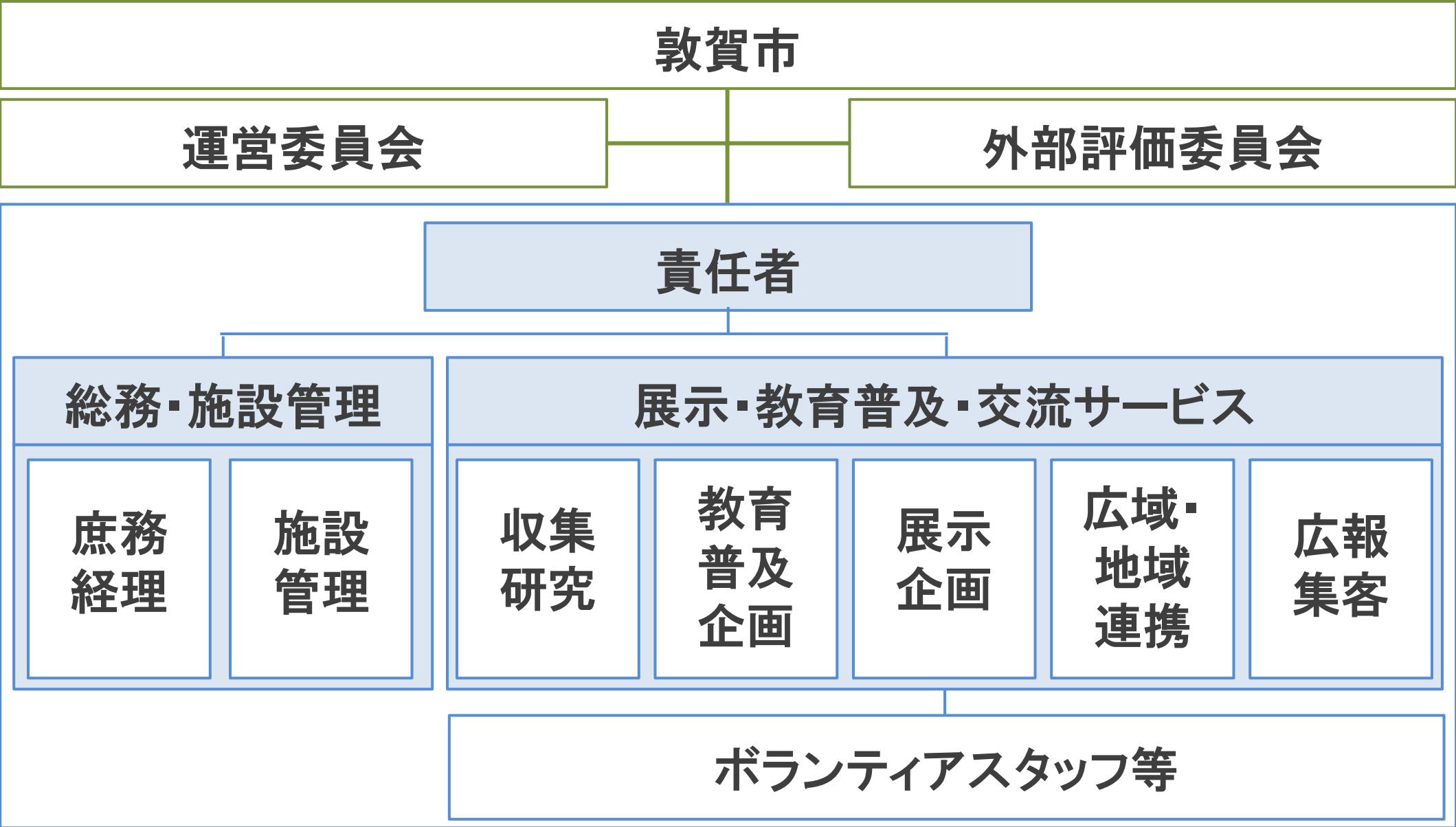
※1: 赤れんがパークとセット割引あり(2施設で400円)。

※2: 高校生の団体及び土曜利用は無料、平和学習利用は大人・子どもともに無料。

- 市内の文化施設、周辺文化施設、類似施設はそれぞれ一般利用料金を200～400円程度で設定。
- 関連施設とのセット料金(割引)や、平和学習利用は無料とする施設も存在する。
- ムゼウムや鉄道遺産の利用料に関しては、これらを参考にしつつ、適切な利用料を今後設定していく。

6. ムゼウムの管理運営方式

(6) 組織体制(案) ※必要な役割を示すもので、ポスト数を示すものではないことに留意



6. ムゼウムの管理運営方式

(7) ムゼウムの収入出の試算

①利用者数の設定

- ムゼウムは、杉原千畝の映画化や、世界記憶遺産への登録申請で注目を浴び、利用者を伸ばしている。
- 加えて、移転によりその規模が約3.8倍に拡充されることから、利用者数の向上が期待される。
- 金ヶ崎エリアの観光客数は年間約35万人あり、現ムゼウムは約5万人であるため、年間の来場者数を10万人と想定する。ただし、年間利用者数の設定は今後慎重な検討が必要。

②収入の設定

- 利用料を400円と設定した場合、子ども利用等の減免措置を踏まえると、利用料収入は33百万円程度と見込まれる。

項目	数値
年間利用者数	約100,000人
一般利用料金 <small>※赤レンガ倉庫と同額で試算</small>	400円
平均単価(減免) <small>※赤レンガ倉庫H28実績より</small>	約330円
利用料収入予測	約33,000,000円

6. ムゼウムの管理運営方式

(7) ムゼウムの収入出の試算

③事業費・維持管理費の設定

- 管理運営に必要となる事業活動費や維持管理費は原則として利用料収入で賄うが、不足分は敦賀市が負担することを前提に今後検討していく。
- 調査研究や資料購入、大規模なイベント・特別展等の実施はその都度特別計上を検討する。
- また、補助制度の活用や広告料収入、寄付行為等については積極的に導入を検討していく。

項目	金額	備考
人件費	約19,000,000円	常勤・非常勤
維持管理費	約16,000,000円	建物維持・水光熱費等
展示・教育普及事業費	約7,000,000円	企画展・プログラム費等
事務管理費、一般管理費	約13,000,000円	事務費・広報、諸経費
	約55,000,000円	

10. 事業推進計画

1. 事業スケジュール

- 平成34年度の北陸新幹線の敦賀延伸を見据えてムゼウムの整備や鉄道遺産活用を実施する。
- また、金ヶ崎周辺整備構想で示されたカフェや物販機能の実現に向けても準備を行っていく。

	平成29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
ムゼウム	基本計画 建築基本設計	建築実施設計 展示設計	建築工事 展示製作	運営準備 供用開始		北陸新幹線敦賀開業
鉄道遺産	計画・調査	基本・実施設計 用地協議		整備工事	運営準備	供用開始
民間活用	用地協議	内容検討・ニーズ調査・募集		設計・整備工事		